

令和 5 年 度

修士論文

地域課題探求型学習における地域資料の構造化の研究
～旧輪中地区（旧長岡村）の土地と先人の記憶をつなぐ～



岐阜女子大学大学院 文化創造学研究科
通信教育課程 デジタルアーカイブ専攻

学籍番号 2020536202

氏 名 伊串美香

主 査 久世 均

副 査 井上 透

副 査 谷 里佐

目 次

第1章 諸 言	1
第2章 地域学習の現状と課題	2
第3章 研究方法	
1. 研究内容	3
2. 研究地域の概要	4
（1）稲沢市の概要	4
（2）祖父江町の概要	5
（3）長岡地区の歴史的背景	6
（4）長岡地区の人々の記憶	7
（5）長岡地区の土地の記憶	14
第4章 社会科副読本の変遷	
1. 先行研究	15
2. 稲沢市の社会科副読本の変遷	17
3. 社会科副読本のデジタル化	23
第5章 地域資源コンテンツの構造化	
1. デジタル学習材	
（1）デジタル紙芝居	25
（2）静止画素材による地域マップ	29
（3）オーラルヒストリー（地泉院住職の話）	30
2. デジタルコンテンツの利用	
（1）デジタル学習材による授業指導案	42
（2）知識構成型ジグソー法を用いた協働学習授業	43
（3）配布資料	47
第6章 結言	52
参考文献	53
謝辞	56

第1章 緒言

平成18年の「教育基本法」⁽¹⁾改正により、「教育の目的及び理念」には「伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと」との文言が加えられた。また、学校教育法第21条（義務教育の目標）第3項⁽²⁾にも同様の内容が規定されており、学習指導要領の各教科に反映されている。平成29年告示の小学校学習指導要領社会編⁽³⁾「教科の目標」には次のように示されている。「地域や我が国の国土の地理的環境、現代社会の仕組みや働き、地域や我が国の歴史や伝統と文化を通して社会生活について理解するとともに様々な資料や調査活動を通して情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。」

また、教育基本法が改正された同年同月に「地方分権改革推進法案」⁽⁴⁾も成立された。「地方にできることは地方に」という方針の地方分権が本格的にスタートしたのである。これにより、平成の大合併と言われる大規模な市町村合併が行われ、愛知県では平成23年4月1日までに15の新たな市が誕生した⁽⁵⁾。これらの合併について全国町村会⁽⁶⁾は調査を行い、プラス面とマイナス面を挙げている。そのうちのマイナス面には、「地域の個性（歴史、文化、伝統）の喪失による不安」の項目が挙げられている。また、市町村合併は全国の公立学校の配置にも影響を及ぼした。少子化が追い風となり、平成元年に全国で24,608校あった小学校が、平成30年には19,591校まで減少したのである⁽⁷⁾。

これらの市町村合併及び学校の統合は、子どもたちの学びに少なからず影響を与えている。小学校第3・第4学年の社会科授業では、教科書検定制度のもとで編集される検定教科書に加えて市町村教育委員会等が発行する社会科副読本が使用されているが、この副読本の内容にも変化がみられる。本来子どもたちの通学圏内である「身近な地域」を対象として作られる副読本であるが、合併や統合により該当の地域が広域化したため、学ぶ内容が「身近」ではなくなっているのである。例として、第4学年の社会科単元「きょう土の伝統・文化と先人たち」ではその対象が町から市に変わった。そもそも児童・生徒が学ぶための子ども向け地域資料が少ない。さらに2020年からのコロナ禍により地域を学ぶリアルな体験の場が減少している。また、教育現場の教師においては、多忙な業務のなかで各地域の資料を収集し教材開発することは時間的な制約が

あり難しい。

コロナ禍では学校がやむなく休校となり、地域行事が中止になる等、外出自粛が余儀なくされた。その反面、デジタル化や ICT 教育が進むこととなり。結果として、2019 年より国の政策として始まった GIGA スクール構想が後押しされた形となった。教科書や社会科副読本等の電子版が活用され、一人一台の端末が配布されるとともに、授業では電子黒板が使われ、アーカイブ画像 (8) の使用や、遠隔地の学校との交流授業等 (9) が行われるようになった。自らの地域文化を紹介し、他地域との比較により新たな発見をする相互学習が可能となった。こうした時代背景を鑑み、教科書を始めとする各種教材は今後デジタル化の方向に進展するだろう。デジタルを活用することで地域の枠を超えた幅広い学びの形が加速することとなる。その一方で地域学習の初めの段階では、身近な地域として我が町を知ることが必要ではないかと考える。

第 2 章 地域学習の現状と課題

市町村合併によるプラス面、マイナス面については全国町村会の調査 (6) や愛知県の調査結果 (10) で確認することができる。その調査のマイナス面のひとつに「地域の個性（歴史、文化、伝統）の喪失」が挙げられているが、このことは、社会科副読本にも影響を与えている。子どもたちが最初に学ぶ地域学習材として、社会科副読本の役割は大きい。なぜなら、昨今、各家庭の地域活動への参加度合いは異なり、子どもたちの知識や体験に差が生じているからである。さらに地域に特化した子ども用の郷土資料や学習材が少ないため、書物やコンテンツを通して個別に学ぶことも難しい。

教員の立場からは、本来、地域資料を教材化するにあたり、教師自身が地域社会と向き合い地域の土地や産業、人々の様子を見て歩き、地域の人話を聞くことにより学習指導要領の内容に関わる地域の事象を自らの目でとらえ地域教材の開発を進める必要がある (11)。しかし、近年大きな社会問題となっている教員の過剰労働を鑑みるに教材開発に大幅な時間を割くことは難しい。青木、堀内 (2014) は、多忙化の質的变化を比較し、その特徴や実態調査の課題を整理している。それによると、教員の多忙化には、いくつかの特徴と多義的な多忙感（負担感）があるという。多義的と言うのは、煩瑣な処理を要求されることにより、その量の多さや費やす時間の長さにより重要な仕事について十分に果たせない等、いくつかの理由が入り混じった多忙感である (12)。こうした教員の多忙感

が教材開発を妨げる要因であり、それに加えて、そもそも子ども用の地域資料が少なく入手が困難であるということもあり、学校現場で地域資料が活用されない現状となっている。

児童・生徒は、地域を学習することで、身近な地域の認識を深め、親しみや愛着を持つことができる。地域の一員としての自覚を持ち、将来の地域資源を生かす担い手として期待される。この地域で育つ彼らには、土地の歴史や成り立ちを知っておいてほしい。そうした知識や先人から受け継いだ知恵が自然災害対策としても役に立つ。

教員に関しては、地域資料がデジタル化されていれば資料収集の負担が軽減され、授業研究の補助資料として活用しやすくなる。また、赴任先が地元でなくても、デジタル地域資料があれば、その土地の概要を確認することができ、児童・生徒とのコミュニケーションも円滑になる。地域の子どもたちとのコミュニケーションの中で、互いに教えあい、学びあうことでさらに認識が深まる。

第3章 研究方法

1. 研究内容

学校現場で活用される地域資料の開発をめざして、身近な地域が学べる学習材を作成する。対象地区は、稲沢市祖父江町の長岡地区である。祖父江町長岡地区は、稲沢市の最西に位置する木曾川沿いの地域にあり、現在、長岡小学校のある長岡地区の馬飼は、明治20年までは岐阜県であった。かつての輪中地域である⁽¹³⁾。長岡村は、昭和31年に祖父江町に編入した最後の村であり、そのことは、当時の祖父江町社会科副読本⁽¹⁴⁾の単元「祖父江町のうつりかわり」のなかに示されている。平成17年の市町村合併では、平和町と共に祖父江町も稲沢市に編入合併された。今回の研究対象とする資料は、合併前後の社会科副読本であり、それらを読み取り、その変遷と現状を確認する。また、長岡地区の文献や現地調査により、それらをまとめることで、デジタル地域教材の開発を行う。学習材の内容は「デジタル紙芝居」「史跡・伝承マップ」「オーラルヒストリー」である。さらに、開発したデジタル学習材を使用して学習指導案を作成する。

2. 研究地域の概要

(1) 稲沢市の概要

稲沢市(図1)は、かつて尾張国の政治・文化の中心地として国衙が置かれていた歴史のある町である。江戸時代には東海道と中山道を結ぶ美濃路の宿場町としてにぎわった。そのため市内各地には、かつての稲沢の隆盛を今に伝える史跡や文化財が数多く残っている。また、自然環境に関しては、市域の西に接する木曽川によって堆積された肥沃な土壌と温和な気候を生かし、植木や苗木の産地として発展してきた。平成17年4月1日には、稲沢市、旧祖父江町、旧平和町が合併し、新しい稲沢市が誕生し、総面積は79.30㎢となった。(図2)



図1. 愛知県稲沢市



図2. 平成17年新稲沢市誕生 稲沢市ホームページより

昭和43年発行(市町村合併前)の『稲沢市史』⁽¹⁵⁾には次のように記載されている。「愛知県稲沢市は、濃尾平野の中心やや南よりにあり、もともと愛知県中島郡に属していた。名古屋市からは西北に位置している。東は青木川と五条川およびその旧河道を境として、北から一宮市と清須市に接している。これは、もともと中島郡と丹羽郡・春日井郡との郡境であった。西は日光川を境として尾西市と中島郡祖父江町(現稲沢市祖父江町)に、南部ではやや東に入り、三宅川によって中島郡平和町(現稲沢市平和町)に接している。稲沢市は木曽川によって堆積された第四期沖積層に覆われた尾張平野の中央にある。市の東境は犬山を起点とする扇状地の末端から約八軒(キロメートル)西にある。稲沢市の東部には、ほぼ東海道本線に沿って断層があり、その東では隆起、西では沈降の傾向があり、地震時の活動が認められる。標高は南西部が低く、北東部が高

い。(略) 沖積層の体積は、東境の青木川、中央の三宅川、西境の日光川がもたらしたものである。この三河川は、いずれもかつては木曽川の本流またはそれに匹敵する主要な分流であった。そのため、洪水の時に堆積した顕著な堤防が兩岸にあって、空中写真のみならず五万分の一程度の中規模縮尺の地図によっても、旧河道の規模を容易に確認できる。自然堤防の幅は約一軒に達し、自然堤防間の旧河川敷も二〇〇米から三〇〇米におよんでいる。とくに三宅川は、犬山市西部から分かれて西南西に進み、一宮市東部から南下して、今日の宮田用水に沿って、子生和町の北境を南西に流れ、島町から稲沢市内に入り、平野の大河川が示す特徴である顕著な蛇行を繰り返しながら、稲沢市内を北東から南西に流れ、東海道新幹線と交差する対角線となり、市外へ出て津島市から伊勢湾に入った。現在では、大江用水が用水路として使用され、旧河川敷も全く開墾され、とくに稲沢市内の中心部では廃川状の排水路となって昔日の面影はない。(略) 三宅川を含む三河川の自然堤防の後背地は、かつての氾濫原であって、乱流した洪水流のあとや、それらの洪水流がつくった自然堤防上の微高地、または三角状の土地も見受けられる。もし木曽川が三宅川などの旧河道入口付近で決壊すれば、大洪水は旧河道からさらに氾濫原へとひろがって、昔日の景観が復原され、この地方の古名である中島郡の名称も、当然のものと理解できるであろう。」(15)

(2) 祖父江町の概要

稲沢市祖父江町は、全国でも有数のギンナンの産地である。中央部には領内川が流れ、それに平行するように、木曽川、日光川が南流している。町の標高は 1~3m、木曽川河口から約 30km 北上しているとはいえ、白い砂丘と松原は美しい景観をかもしだしている。この河岸砂丘は利根川と並び日本でも有数のスケール。古来から、木曽川の本支流が押し出す堆積土砂により形成された。現在、祖父江町を南流する河川は木曽川をはじめとする三川であるが、まだ木曽川が木曽七流とも八流との呼ばれた時代、この地には佐屋川や加賀野井川、萩原川など、木曽川や長良川を本流とする幾筋もの小河川が乱流し幾度も洪水や氾濫による河川の変動により、現在のような肥沃な土地が熟成された。祖父江という名は過去の河川の状況を伝えるものである。まだ木曽川に堤防がなかった頃、潮の干満のたびに加賀野井川では赤褐色の「そぶ水」がよどんだことから、そぶ水にちなみ祖父江と名づけられた(16)。

(3) 長岡地区の歴史的背景

祖父江町の沿革をたどると、明治 29 年に祖父江町となった祖父江村、山崎村、領内村、丸甲村、牧川村の 5 村がひとつの町（祖父江町）となった（図 3）。木曽川沿いの村であるこの地域の一部は岐阜県に属していた時期がある。上記 5 村に属さない長岡村はその前身を馬飼村（まかいむら）という名称であった。三拾町村、川東村、拾町野村とともに江戸時代には美濃国（現在の岐阜県）の中島郡に属していた（図 4）。明治 20 年（1887 年）に馬飼村と拾町野村は、美濃國中島郡から尾張國中島郡（現在の愛知県）に編入し、その後、明治 39 年に馬飼村は長岡村と名称が変わり、さらに昭和 20 年（1945 年）には、長岡村、拾町野村、西鵜之本村、四貫村、神明津村、拾町野村の 5 村がひとつとなり長岡村となった。そして、その 11 年後の昭和 31 年（1956 年）に長岡村は祖父江町となる。馬飼村が美濃國中島郡であったことは、「美濃国十八郡之内支配所絵図」（図 4）等で確認することができる。祖父江町の最西に位置し、木曽川を挟んで対岸が岐阜県の位置にある長岡村は、歴史に翻弄された村でもある。いくつかの絵図で年代を辿ったところ、馬飼村が美濃国であったのは、慶長 19 年（1614 年）から明治 20 年（1887 年）までの約 260 年間であり、その間、輪中地域として水の恩恵を受けながらも水との戦いに悩まされた⁽¹³⁾。馬飼村周辺が輪中地域であったことは、江戸時代の「木曽三川流域絵図」等で確認できる（図 5）。

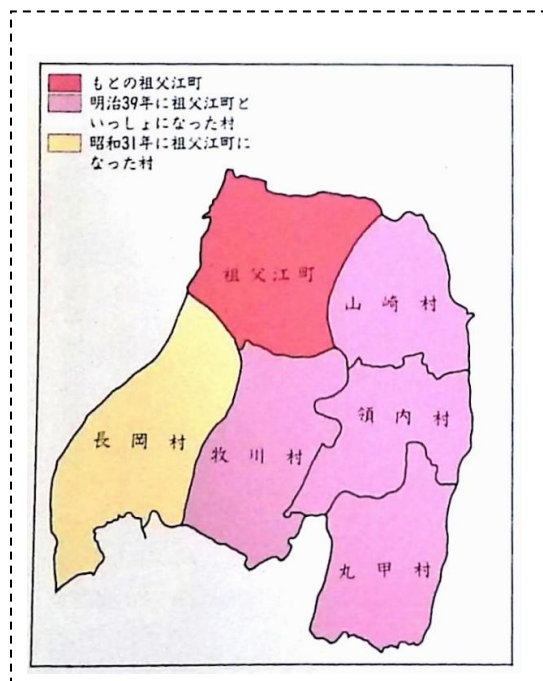


図 3. 町の広さのうつりかわり 『わたしたちのまちそぶえ』より⁽¹⁴⁾



図 4. 美濃国十八郡之内支配所絵図
(明治 2 年 (1869 年))

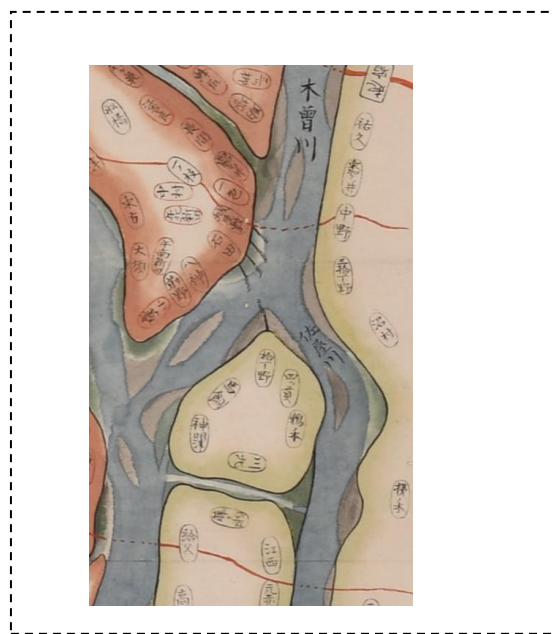


図 5. 木曾三川流域大絵図 (13)

<https://websv.aichi-pref-library.jp/ezu/ezudata/jpeg/699.html>,

(4) 長岡地区の人々の記憶

1981 年から 1982 年にかけて、当時の祖父江町であった長岡地区にある長岡小学校 PTA が小史を編集し発行している (図 6-1) (図 6-2)。これは、PTA 学習活動の一環であり、「ふるさとを知り、ふるさとを生かす子を育てよう」という課題の下に企画されたものである。内容は長岡地区 (馬飼・四貫・拾町野・西鵜之本・神明津) の方々の寄稿文であり、古き時代の生活様式や風景等が書かれている。また、かつての祖父江町教育員会と長岡連区の協賛により、祖父江町長山内勉氏、長岡連区委員長日比貫一氏らもあいさつ文を寄せている。各寄稿文のタイトル (目次) から昔の長岡地区の様子が垣間見えるため、表 1. と表 2. に一部目次の抜粋を行う。

抜粋した目次は、大項目として「地域と生活」「土地と人」としてまとめられている。寄稿者の年齢は、終戦直後 (1945 年以降) の記憶のある方から当時小学校 3・4 年生 (2023 年現在 50 歳前後) の子供たちまで、幅広い年代の方が長岡の日常を記している。

図 6-1. 『一本松の子ら』（1981 年刊行）

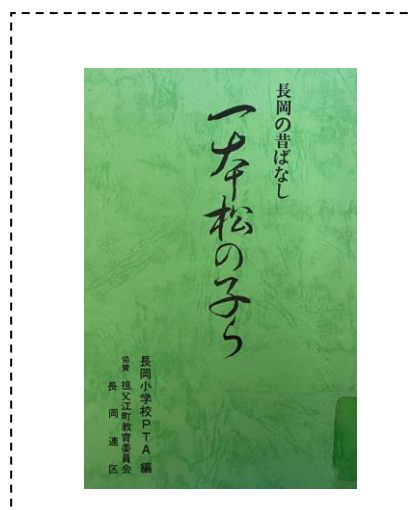


表 1. 『一本松の子ら』目次 抜粋

目次	地域名
もらい風呂	四貫
昔の天気予報	四貫
水屋	馬飼
昔の思い出	馬飼
馬飼大ミヨと一本松	馬飼
むかしむかしのこと	
佐屋川廃川の思い出	西鵜之本
盆や正月	馬飼
電燈の話	馬飼
昔の七夕	拾町野
左義長と天筆	馬飼
桃の名所	馬飼
木曽川築堤工事	神明津
拾町野の昔	拾町野
神明津のどぶろく田	神明津
母	馬飼
思い出あれこれ	神明津
私の一生	神明津
明治の暮らし	
とどめき川のこと	みどり
兵隊さん	四貫
虫祭り	四貫
長岡の農家の今と昔	馬飼
左義長	神明津
リヤカーの思い出	神明津

図 6-2. 『みよ池の里』(1982 年刊行) 表 2. 『みよ池の里』目次抜粋



目次	地区名
一本松とみよ池の史跡指定にことよせて	四 貫
尾張の災害	四 貫
水とのたたかい (輪中・水屋)	四 貫
一本松とみよ池のこと	四 貫
思い出 (ご神木のいかだ下り) (木曽川の砂丘) (みよ池の生物) (佐屋川廃川に飛行機がおりたこと)	四 貫
洪水について	四貫
旧佐屋川用水の思い出	四貫
昔の長岡	馬飼
神明津の港	馬飼
中尾張	馬飼
鶺鴒多須切れ	西鶺鴒之本
四貫弁才天のあし	四貫
一本松の思い出	馬飼
長岡の発展	馬飼
佐屋川用水土手の梅の木	馬飼
忠魂碑	馬飼
ご神木の筏	馬飼
円空と円空仏	四貫
むかしのこと	神明津
馬飼大橋	馬飼
国府宮大鏡餅奉納	馬飼
長岡の昔のようす	神明津
こまどめかんのん	神明津
長岡のむかし	四貫
ぼくの村	神明津
一本松	馬飼
地泉院の大松	神明津

小史のタイトルにもある「一本松」というのは、かつて村人に親しまれた「馬飼の一本松」のことであり、「中島郡名所旧蹟写真帖」を引用し「一本松は長岡村大字馬飼、木曾川堤防にあり、万治二年（1659）木曾川堤防破壊せしにより、濤止の際受け込みたる記念樹にして翠蓋（緑の傘、松の傘状の枝のこと）清流に臨み、風景絶佳なり」と祖父江町史（17）に記載がある。また「みよ池」もその周辺にあり、その様子は、天保の村絵図 濃州石津郡馬飼村絵図面（図 7-1）にも描かれている（図 7-1. の右端中央部分に「池」の文字が見られる箇所が「みよ池」）。この一本松は、昭和 19 年（1944 年）に雷が落ちて枯れてしまったが、現在も地域の人々の間で語り継がれている。小史『みよ池の里』発行時に長岡連区委員長が寄せたあいさつ文では「一本松は枯れても、みよ池はうまっても、長岡の住民には木曾の流れに雄大な緑を写していた一本松や、その下にひろびろと広がっていたみよ池の姿をわすれることはできません。」という言葉を残している。小史の中にも同様に「一本松」「みよ池」そして今は廃川となった「佐屋川」の思い出が多く語られている。

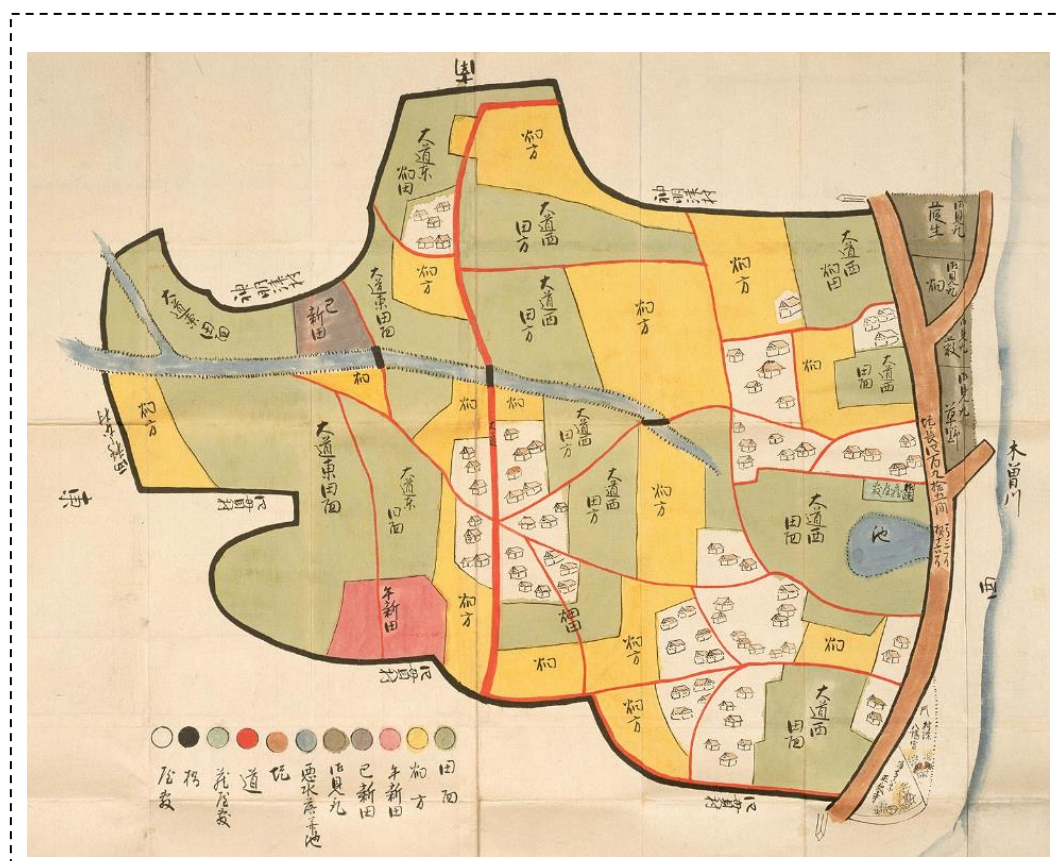


図 7-1. 天保の村絵図 天保 12 年 濃州石津郡馬飼村絵図面 愛知県図書館所蔵

<https://websv.aichi-pref-library.jp/ezu/ezudata/jpeg/561.html>

愛知県図書館が所蔵する同村絵図の拾町野村（馬飼村より北方向）絵図面（図 7-2）には木曾川から分派した佐屋川が確認できる。また、佐屋川については『尾張名所図会中巻』には、次のように記載されている。

「(中略) 是木曾川の下流にして、水源は信州の筑摩郡奈良井驛の鳥居嶺の奥より出で、飛騨・美濃両国の川々のこりなく落ち合ひ、或は分流し、伊勢の桑名の城下に至って海にい入る。凡そ六十里の長流にて、川幅甚廣く、水のおびただしき事測りがたく川中の梶島・油島等の島々あり。ここより桑名への船路三里餘、常に大小の船往来絶ゆる事なく、縉紳の高貴及び西国の諸侯方も、皆此川を通行し給ひて、あつた潟の七里の渡しにつづける船渡しなり。」

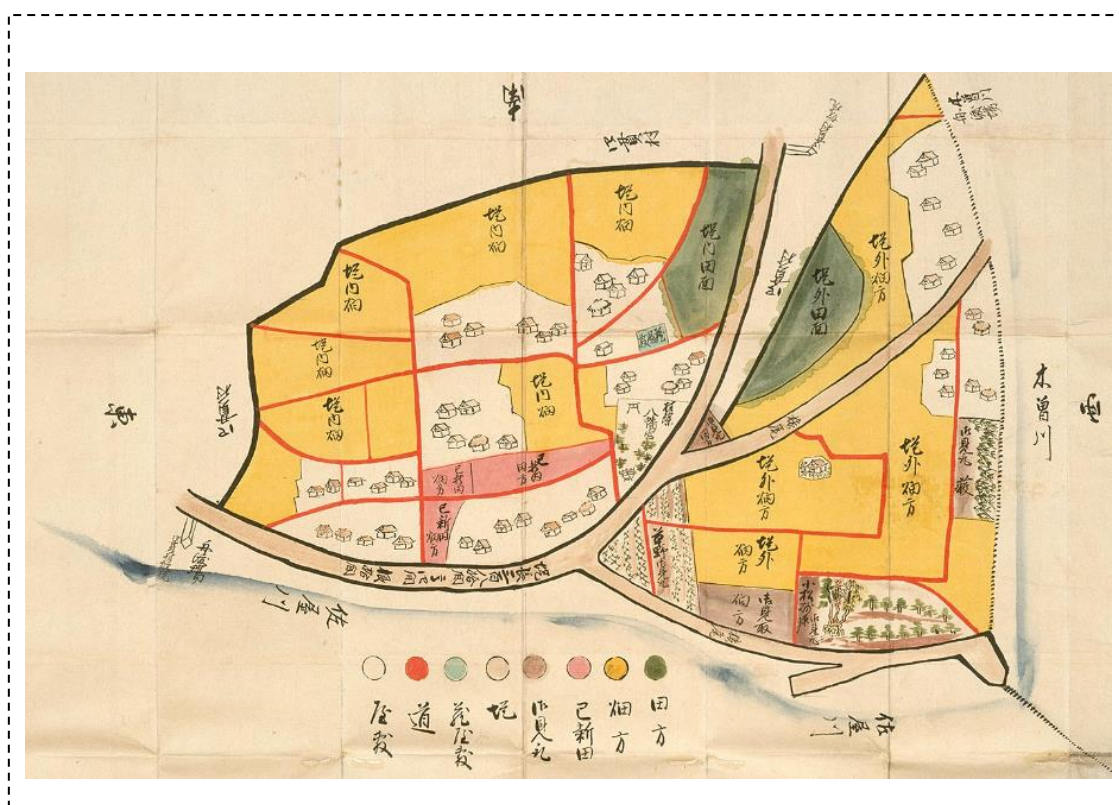


図 7-2. 天保の村絵図 天保 12 年 中島郡拾町野村絵図面 愛知県図書館所蔵

<https://websv.aichi-pref-library.jp/ezu/ezudata/jpeg/599.html>

小史『一本松の子ら』『みよ池の里』の寄稿文は体験者が実在し、当時の状況を語った覚書き（日記）のようなものであるが、その中から伝承にちかいものが「いなざわの昔ばなし」として稲沢市のホームページに掲載されている（17）。

祖父江地区の昔ばなしは、「祖父江の竿鷹」「土っこが降ってきた」「砂山の化かし狐」の3点である。その中の「砂山の化かし狐」が長岡地区の話である。昔ばなしの文中には当時の地理関係がわかる表記や図が書かれている。以下「砂山の化かし狐」を一部抜粋する。

(略) 木曽川から分かれた佐屋川を、拾町野の渡し船で祖父江側に渡って、歩きにくい砂山エッチラ、オッチラ歩いて、やっとのことで砂山を越えた。松山を過ぎて、宮田用水の橋を渡って、八神街道へ入り、薬師堂で「マンマンチャン、アン」とお詣りをして、やっとここで一休みをしましたんじゃ。ここまできると、少し先に新町が見えましてな

(中略) 父さまは、今いる場所を確かめ「佐屋川の先っぽまで来てしまったようだ。渡し場まで下ろう」と言われ、また砂の上を歩かれましたそうな。渡し場で向こう岸の船頭さんの家の方へおお声で舟を頼まれたそうな。すると、その声を聞きつけた船頭さんが、舟で迎えに来てくれましたげな。私はそのころになって、やっと目が覚めたんですの。拾町野へ舟で送ってもらって、やっとのことで家にたどり着きましたんじゃ。(略)

(19)

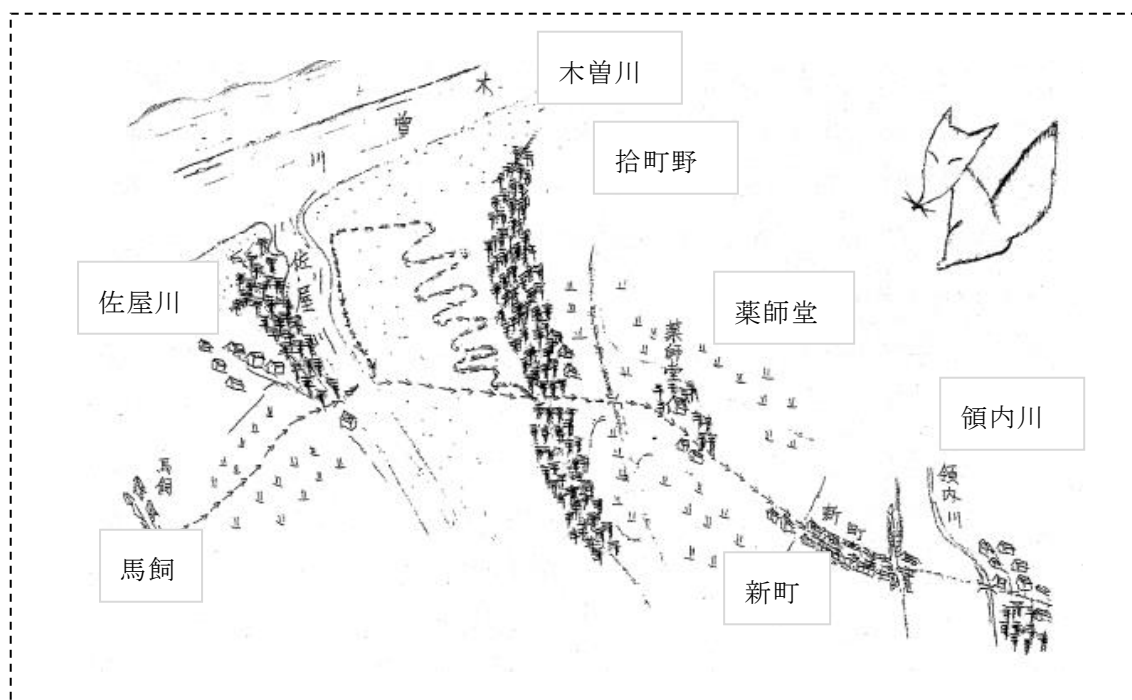


図 8-1. 「砂山の化かし狐」 祖父江の拾町野・沼山

昔話には、著者が移動した足取りを示した絵図もつけられているが、ホームページ上の図は不明瞭なため、原本を図 8-1. に示す。現在の地図に表すと図 8-2. のような位置関係になる。佐屋川が流れていた場所は明確ではない。



図 8-2. 現在の Google map

また、長岡の昔ばなしには、稲沢市のホームページには掲載のない「四貫弁財天の葦」と「馬飼のみよ池と一本松」の2話も冊子に残されている(20)。いずれも小史『みよ池の里』に掲載されている話である。この3話の昔ばなしは、昔の土地の名称や歴史的背景が記されており、地域学習としても役立つものである。おおよその場所を Google map (図 8-2) に星マークで表示した。以下の3点である(図 8-3)。

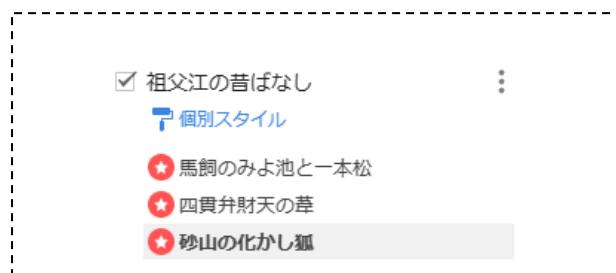


図 8-3. Google map に星マークを付けた祖父江の昔ばなし3話

（５）長岡地区の土地の記憶

現在、長岡小学校のある長岡地区は稲沢市祖父江町の最西に位置し木曽川に接する地域である（9-1）。小学校から歩いて数分の位置に木曽川堤防があり、木曽川大堰、馬飼頭首工（馬飼大橋）を西方向に渡ると岐阜県羽島市へ続く。長岡小学校は明治 7 年に馬飼村、拾町野村の 2 村が合同して正鵠学校として開かれたのが始まりである。（17）

長岡村の名称は、かつての荘園「長岡壮」に起因する。「長岡壮」は、中世初等から有力な荘園で、その壮域は祖父江町の旧長岡村を中心として、上牧・中牧・二俣など数村と、海部郡八回村開治地域にわたる広大なものであった。壮名は「吾妻鏡」にも記載されていると『祖父江町史』（17）にある。



図 9-1. 木曽川に接する長岡地区（Google Map より）

「長岡小学校」の名称は、昭和 22 年の新学制の発足に伴い、国民学校が小学校に改められたときに遡る。当時は長岡村立長岡小学校と改称された（17）。先にも述べたが、長岡地区は明治 20 年までは岐阜県中島郡であり、かつては輪中地域であった。明治、昭和の市町村合併を経て村から町へ名称が変更され、昭和 31 年に現在の祖父江町に転入した最後の村でもある。

この地域の古い地図が Web サイト「今昔マップ」⁽²⁰⁾ で確認できる。1888 年（明治 21 年）から 1898 年（明治 31 年）の様子が最も古い地図である（図 9-2）（図 9-3）。古地図に見られる長岡地区の東側には、木曽川と同等規模の佐屋川が流れていた。この佐屋川は、明治 33 年（1900 年）※に締め切られたが、佐屋川が流れていた痕跡は現在でも確認することができる。詳細は後程述べることとする。 ※または明治 32 年（1899 年）

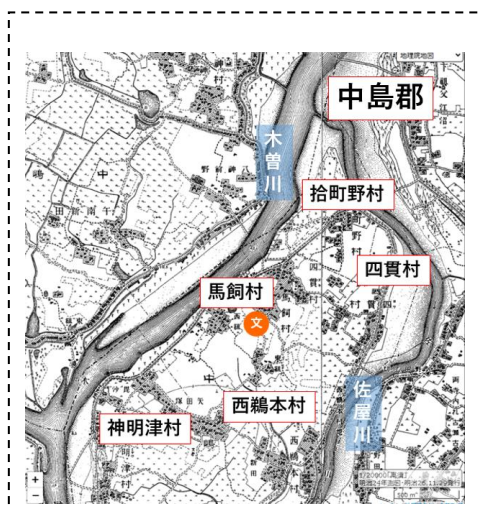


図 9-2. 1888 年代（明治 21 年頃）の長岡
今昔マップ on the web より (21)



図 9-3. 最近（令和 5 年頃）の長岡

第 4 章 社会科副読本の変遷

1. 先行研究

社会科副読本の変遷をたどるうえでポイントとなる点が 2 つある。ひとつは「市町村合併」であり、もう一方は「学習指導要領」である。政府によるこの二つの世策は児童・生徒が地域を学習するうえで大きな影響を与えている。伊藤（2008）は、社会科副読本実践及び研究の歴史的変遷を時代を追って分析し、学習指導要領の改訂ごとに変容してきた副読本の様子を明らかにしている (22)。表 3 にその一部の特徴を抜粋する。

表 3.

指導要領改訂時期	概要	実践・研究・考察（引用元）
昭和 43・44・45 年 （第三次改訂）	小・中学校で特別活動と学校行事を統合し、「特別活動」とする。	郷土学習が地域学習へと概念が転換。 伊藤（2008）(22)
平成元年 （第五次改訂）	小学校低学年で「社会科」と「理科」を統合して「生活科」を新設。	教科書が学習の手引きや指導計画の参考資料としての機能を高め、それにと もない副読本の記述スタイルも授業過程再現形式をとるものが増えた。 田村（1996）(23)

平成 10・11 年度 (第六次改訂)	小学校 3 学年以上で 「総合的な学習の時間」を新設。	教育内容を第 3・4 学年一緒に提示し, 6 つの内容の配列を現場に問うた。「教科書準拠型地域副読本」から「地域準拠型副教科書」へと転換。田村 (1996) (23)
平成 15 年以降		平成の大合併で地域学習は大きな課題が生じた。伊藤 (2006) (24)

平成の大合併により新たな課題が地域学習に課せられたとして, 伊藤 (2006) は次の 3 点を地域学習の問題点として指摘している (24)。①広域化による地域の一体感希薄化の中での我々の町意識形成の問題, ②旧行政単位で発行していた副読本の統合による副読本の学習対象地域の広域化の問題, ③伝統的地名の消失の問題。

さらに, 正木 (2005) を引用し, 昭和の大合併と平成の大合併の違いをまとめている。「昭和の大合併では, 市町村の範囲が拡大したが, 一方で日常生活も拡大する状況にあった。」そのため「市町村は日常生活の広がり近く『身近な地域』といえた。」「しかし, 平成の大合併はやや様子が異なり, 『身近な地域』を越えて市町村域が拡大しているのではないか」と思える。『身近な地域』のとらえ方の問題であるが, 地域社会形成にとって重要であるメンタルな『身近な地域』から遊離していないのか。」と述べている。(25) また, 子どもの捉える「身近な地域」と市町村の乖離という問題から発生する郷土を担う子どもの育成の困難性に真摯に正対することが課題であるとしている。(24)

同様に池 (2008) は, 「市町村合併による自治体の広域化が進むなかで, 副読本において『身近な地域』が扱われるケースがきわめて少なくなっている」(26) と指摘し, 教科書と副読本の役割を住み分ける提案をしている。「具体的には, 教科書と副読本の機能分担 (教科書は一般性・方法知を重視, 副読本は地域性・内容知を重視する従来の機能分担) を再検討し, 副読本では「市区町村」全体と「身近な地域」の学習に活用できる資料を提供し, 実際の授業は「身近な地域」に近い, 地域単位で作成されるワークブックを中心に進めるなど, それぞれの地域の実態に応じた抜本的な対策が必要である。」

(26)

2. 稲沢市の社会科副読本の変遷

社会科副読本の変遷については、稲沢市もまた市町村合併（2005 年）前後と近年使用されている内容には大きな違いがある。稲沢市の社会科副読本は市の教育委員会が発行し、各小学校へ配布され、一般には流通されない。また、過去の資料は教育委員会及び稲沢市図書館に全て所蔵されているわけではないため、入手するのも困難である。今回、小学校などに保管されていた一部の社会科副読本の中からその傾向を示すこととする。

平成の市町村合併以前は、稲沢市内の小学校 14 校に『わたしたちのまちいなざわ 3 年生』⁽²⁷⁾及び『わたしたちのくらし稲沢 4 年生』⁽²⁸⁾が配布されていた。同様に、祖父江町の小学校 6 校に『わたしたちのまちそぶえ』⁽¹⁴⁾が配布されていたと思われる（平和町は確認できず）。いずれの副読本も児童、生徒にとって地元の地名や川の名称が書かれた馴染み深いものであり、身近な地域の地理的環境がわかる内容となっていた。また、歴史的事実も折り込まれているため、その土地の成り立ちや文化的背景などを理解することにも役立つ。これらの内容の一部は合併後の平成 18 年（2006 年）『わたしたちのいなざわ 三・四年生』⁽²⁹⁾以降も引き継がれているが、年々省略傾向にあり、令和 2 年（2020 年）の改訂の際に大きく変更され、教科書『新しい社会 4』⁽³⁰⁾に準拠していれば記載されるはずの第 4 章の「きょう土の伝統・文化と先人たち」第 5 章の「特色ある地いきと人々のくらし」は全て割愛されている。

表 4-1. 市町村合併（2005 年）前の稲沢市社会科副読本

1989 年（平成元年）：旧稲沢市 『わたしたちまちいなざわ 3 年生』 ⁽²⁷⁾	地名及び地域の名称
第 6 章 かわってきた市 P. 154～P. 155	稲沢町, 明治村, 千代田村, 大里村
1. 学校のうつりかわり P. 156～P. 167	美濃路, 尾張国が址, 尾張国分寺址,
2. 市のうつりかわり P. 168～P. 181	性海寺, 万徳寺, 国府宮神社, 六角堂,
3. 市にのこる古いもの P. 182～P. 187	長光寺, 国分寺, 日下部太鼓, 矢合観 音, せんき薬師

表 4-2. 市町村合併（2005 年）前の稲沢市社会科副読本

1989 年（平成元年）：旧稲沢市 『わたしたちの暮らし稲沢 4 年生』（28）	地名及び地域の名称
第 2 章 安全な生活を守る P. 48～P. 49 1. 火事をふせぐ P. 50～P. 65 2. 大水をふせぐ P. 66～P. 71	目比川, 田代団地, 日光川, 三宅川, 光堂川, 尾張水害予防組合, 西島町, 坂田町, 日下部町,
第 4 章 きょうどを開いた人々 P. 100～P. 101 1. 小牧原を開く P. 102～P. 109 *水害を防ぐ P. 110～123	入鹿池, 木曽川下流付近, おかこいづつみ, 木曽川, 犬山市, 弥富町, 美濃, 揖斐川, 長良川, 宝暦の治水, 薩摩藩, 千本松原, 治水神社, ヨハネス・デ・レーケ, 立田村, 八開村, 津島, 佐屋川, 船頭平, 水門, 国営木曽三川公園

表 4-3. 市町村合併（2005 年）前の祖父江町社会科副読本

1980 年（昭和 55 年）：旧祖父江町 『わたしたちの町そぶえ』（31）	地名及び地域の名称
三年生 第 5 章 かわってきた祖父江町 1. 祖父江町のうつりかわり P. 51～P. 54 2. 鉄道と祖父江町のようす P. 55～P. 60 3. 祖父江町にある古いもの P. 61～P. 64 四年生 第 2 章 安全な生活 1. 火事をふせぐ P. 82～P. 90 2. 大水をふせぐ P. 91～P. 95	善光寺, 山崎, 領内, 丸甲, 牧川, 祖父江町, 長岡村, 濃尾大じしん, 祖父江村, 新町, 佐屋川, 森上駅, 八神渡, 伊勢台風, 稲沢市, 祖父江町, 平和町, 馬飼大橋, 木曽川, 八神かいどう, 一宮, 弥富, 尾西鉄道, おちよぼ稲荷, 高熊, 輪くぐり, 領内川, 虫おくり, 牧川, 島本,

表 4-4. 市町村合併（2005 年）前の祖父江町社会科副読本

1996 年（平成 8 年）：旧祖父江町 『わたしたちのまちそぶえ』（14）	地名及び地域の名称
第 5 章 かわってきた祖父江町	木曽川, 佐屋川, 新町, 森上駅, 祖父江

1. 道具からむかしをしらべる P. 40～P. 42	町, 山崎村, 領内村, 丸甲村, 牧川村,
2. 祖父江町のうつりかわり P. 43～P. 45	長岡村, 長良川, 揖斐川, 八神かい道,
3. 祖父江町の古いものさがし P. 46～P. 50	一宮, 弥富, 萩原, 丸渚駅, 上丸渚駅, 山崎駅, 県道尾西津島線, 馬飼大橋, 羽島市, 海津市, 県道馬飼井堀線, 稲 沢市, 祖父江町, 下丸渚 (丸甲), 本源 寺, 中牧 (牧川), 皇大明神社, 高熊 (祖 父江), 善光寺, 水屋, 中野の渡し, 起, 津島, 中沼 (祖父江), 八神の渡し, 野田 (牧川), 野田の渡 し, 牧川の島本, 長岡の西鷄之本, 四 貫, 広口池, 領内川, 本甲 (領内), 布 智神社, 王塚 (山崎), 地藏寺, 虫送り, 島本新田 (牧川), 神明社 , 八幡社, 輪くぐり, 神明津 (長岡), 地泉院, 十万体地藏流し

表 4-5. 市町村合併 (2005 年) 翌年の稲沢市社会科副読本

2006 年 (平成 18 年): 新稲沢市 『わたしたちのいなざわ 3・4 年生』(29)	地名及び地域の名称
第 5 章 きょう土につたわるねがい P. 112～ 115	木曾三川公園, 治水タワー, 木曾川, 長良川, 揖斐川, 治水神社, 宝暦治水, 薩摩藩, 平田靱負, おかこいづつみ, 千本松原, 油島しめ切り工事の絵図, ヨハネス・デ・レーケ, 明治の治水工 事, 佐屋川, 愛西市, 津島市, 船頭平の 水門, 国府宮神社, 長光寺の地藏堂, 長福寺, 三宅 (屯倉), はだか祭り, な おい神事, 馬祭り, 大塚性海示れきし 公園, 多宝塔, 屯倉天王祭り, 祖父江
1. 古い道具と昔の暮らし P. 116～P. 123	
2. 水害をふせぐ P. 124～P. 135	
3. のこしたいもの, つたえたいもの P. 136～ P. 145	

	の虫送り, 神明社, 王塚の地藏祭り, 高熊の輪くぐり, 神明津の十万体地藏流し, 地泉院, 立部神社, 北市場のこがし祭り,
--	---

表 5. 市町村合併（2005 年）後の稲沢市社会科副読本

2011 年（平成 23 年） 『わたしたちのいなざわ 3・4 年生』（32）	2015 年（平成 27 年） 『わたしたちのいなざわ 3・4 年生』（33）	2020 年（令和 2 年） 『わたしたちのいなざわ 3・4 年生』（34）
第 4 章かわってきた人々の暮らし 1. 古い道具と昔の暮らし 2. のこしたいもの, つたえたいもの 第 4 章 暮らしを守る 1. 火事から暮らしを守る	第 3 章 かわってきた人々の暮らし 1. 古い道具と昔の暮らし 2. のこしたいもの, つたえたいもの 第 4 章 暮らしを守る 1. 火事から暮らしを守る 2. 地震から暮らしを守る	第 3 章 暮らしを守る 1. 火事から暮らしを守る 第 4 章 市のうつりかわり 1. 市の様子と人々の暮らしのうつりかわり 第 6 章 自然災害から暮らしを守る 1. 地震から暮らしを守る
国府宮神社, 性海寺, はだか祭り, 馬まつり, 王塚のれきし公園, 多宝塔, 国府宮駅, なおい神事, 日下部太鼓, 七宝町沖の島, 祖父江の虫送り（牧川地区）, 北市場のこがし祭り（大里東地区）, 立部神社, 三宅の屯倉天王祭り（三宅地区）, 伊久波神社, 屯倉社, 王塚の地藏祭り（山崎地区）, 地藏寺, 神明津の十万体地藏流し（長岡地区）, 地泉院, 高	国府宮神社, 性海寺, はだか祭り, 馬まつり, 王塚のれきし公園, 多宝塔, 国府宮駅, なおい神事, 日下部太鼓, 七宝町沖の島, 祖父江の虫送り（牧川地区）, 北市場のこがし祭り（大里東地区）, 立部神社, 三宅の屯倉天王祭り（三宅地区）, 伊久波神社, 屯倉社, 王塚の地藏祭り（山崎地区）, 地藏寺, 神明津の十万体地藏流し（長岡地区）, 地泉院, 高	稲沢駅, 国府宮駅, 西尾張中央道, 名神高速道路, 名古屋, 稲葉村, 小沢村, 稲沢村, 稲沢町, 大里村, 千代田村, 明治村, 祖父江町, 平和町, 濃尾地震, 東南海地震, 液状化現象,

熊の輪くぐり（祖父江地区）, 八幡社	熊の輪くぐり（祖父江地区）, 八幡社, 濃尾地震, 東日本大震災, 液状化	
--------------------	---	--

相澤（2011）は、副読本の記述内容に地域的・年代的差異が生じる原因に関心を寄せている。また、副読本における災害関連記述は、安全関連項目（地域の安全）と歴史関連項目（郷土の歴史）に分けられることに注目し、災害直後や市町村合併、学習指導要領の改訂などにより、副読本の内容は再構成されると述べている⁽³⁵⁾。以下に引用する。

多くの地域では、大きな災害直後は災害関連の記述が増加するが、時間が経過すれば、災害関連の記述は省略されていく。また、学習指導要領の改訂によって、郷土の歴史が「先人の活躍によって地域が良くなった」という形式で提示されるようになったため、水害の問題は解決したような印象を与える可能性がある。（略）

郷土の歴史における災害の要因に関する記述は、多面的かつ可変的な側面がある。災害関連記述の可変性は、市町村合併を通じて顕著に表れており、よりローカルなスケールの旧町村の記述は、合併によって省略ないし消滅している。つまり、「郷土の自然災害の歴史等を学ぶ機会」は市町村合併によって失われる傾向が強く見られたといえる。

(35)

稲沢市の社会科副読本を市町村合併及び学習指導要領の改訂前後について考察すると、市町村合併後から数年ごとに固有名詞や土地の名前の記載が減少していることがわかる（表5）。また、全体的に内容が一般化されるとともに、中心部（稲沢駅・国府宮駅周辺）が主体となる傾向がみられる。

稲沢市内には18の河川がある（図10-1）。河川水系は一級河川である木曽川水系、庄内川水系と二級河川である日光川水系に分かれており、河川の総延長は市区町村合併前と比較して大幅に増加し52.9kmにおよぶ。木曽川水系の主な河川としては、市域の西部を南下する一級河川の木曽川があり、庄内川水系の主な河川としては、市域の東部を南下する一級河川の青木川、五条川が挙げられる。日光川水系の主な河川としては、市域の中西部を南下する二級河川の日光川、光堂川、領内川、三宅川、福田川が挙げられる。また、市の中心部を

農業用水路の大江川が流れている。現在は、市域の西に接する木曽川によって堆積された肥よくな土壌と温和な気候を生かし、植木や苗木の産地として発展してきたと言われているが、歴史の中では木曽川沿いの地域は水害に悩まされた時期があった。また市内中心部を流れる三宅川は、近年でも台風などの増水により冠水することがある。旧平和町地区と愛西市の境では日光川、領内川、三宅川が合流する地点があり、古くから水の被害に気を使ってきた地域である（36）。このような河川の名称も地名と同様に地元住民にとっては親しみやすさがちがう。そのため、子どもたちが学ぶ社会科副読本にも、身近な地名や川の名前、歴史的建物や地域行事などを残す必要があると考える。

図 10-1. の稲沢市内の河川は、令和 2 年度『わたしたちのいなざわ』（34）の付属資料であり、図 10-2 は平成 8 年度『わたしたちのそぶえ』（14）の 1 頁目に掲載されている資料である。①と②の間に「宮田用水牧川井筋」、②と③の間に「宮田用水森上井筋」と記載があるが、2023 年現在「牧川分水路」「森上分水路」という名称となっている。

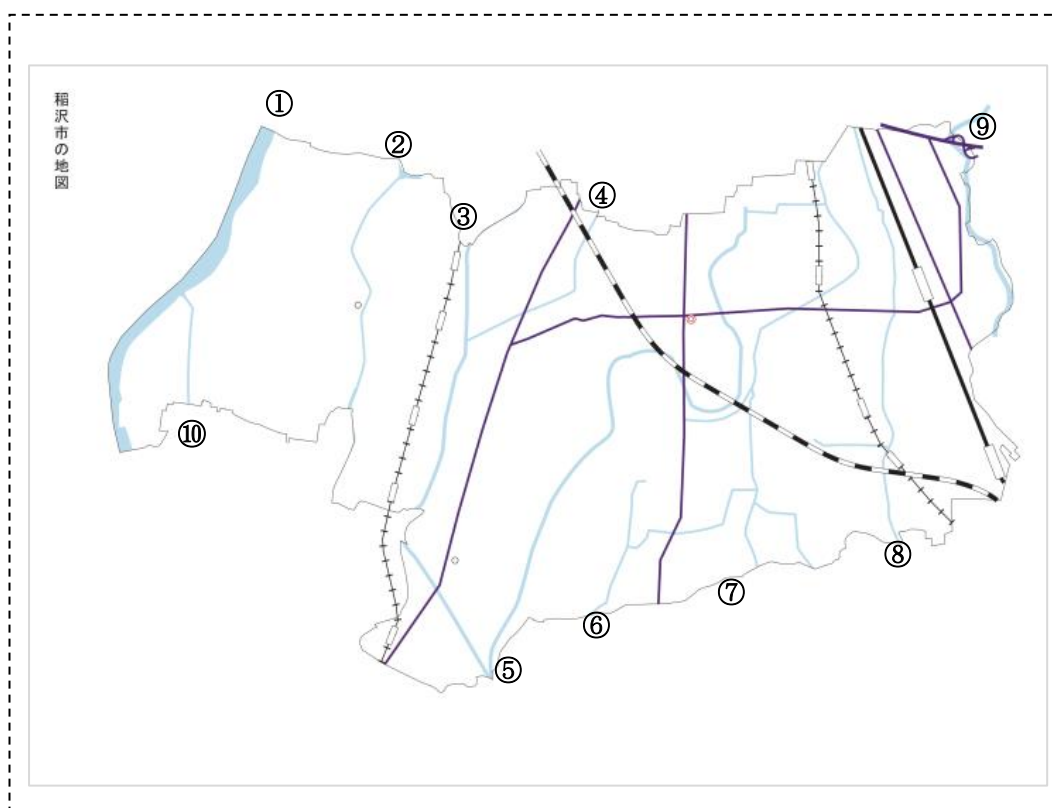


図 10-1. 稲沢市内の河川 令和 2 年『わたしたちのいなざわ』（34）より抜粋

- ①木曽川 ②領内川 ③日光川 ④光堂川 ⑤三宅川 ⑥目比川 ⑦大江用水
⑧福田川 ⑨青木川 ⑩佐屋川用水

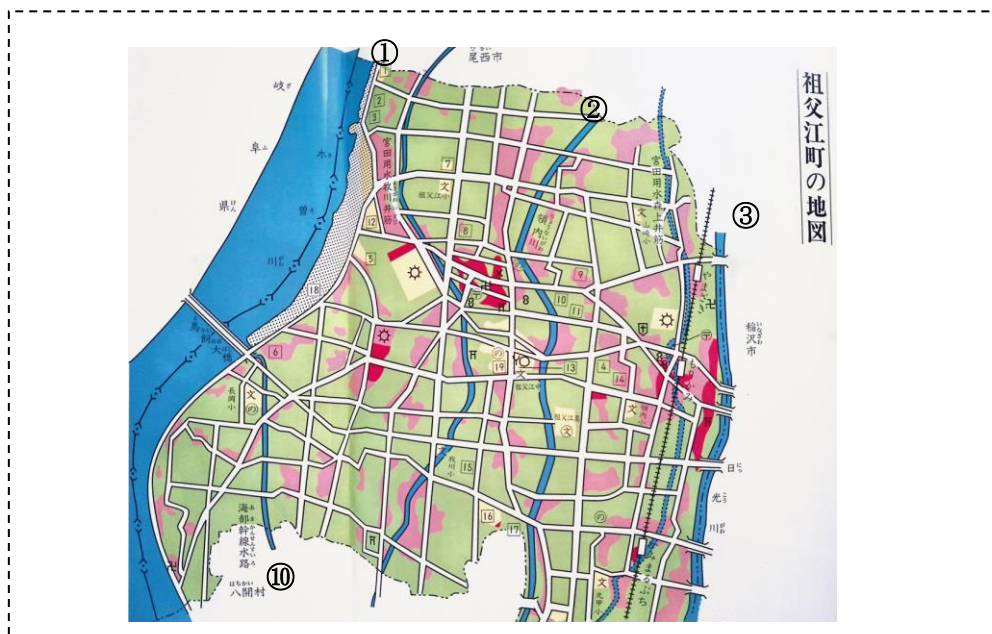


図 10-2. 祖父江市内の河川 平成 8 年『わたしたちのまちそぶえ』(14) より抜粋

①と②の間の川は宮田用水牧川井筋 ②と③の間の川は宮田用水森上井筋

3. 社会科副読本のデジタル化

社会科副読本のデジタル化については、各教科書出版社会社 (36) がその手引書を公開している。デジタル教科書とあわせて、地域学習の社会科副読本作成にあたる教師のための指南書である。稲沢市の令和 2 年社会科副読本「わたしたちのいなざわ」(34) についてもオープンデータ化されており、ワークシート集、画像データ集、簡易な授業例などがウェブ上で確認することができる (図 11-1) (図 11-2)。

最近では、デジタル化された副読本は多く見られるようになったが、インターネット上で公開されている副読本は、紙媒体の本文や資料構成をそのまま PDF や HTML 形式で提供している形態がほとんどである。これは、デジタル化のための設計方法がないこと、新たにデジタル教材として再編集する時間と費用がないことが要因であると岡崎 (2018) は指摘している (37)。また、デジタル副読本の設計・開発では、資料や本文の制限を受けることがないため (紙面に比べてスペース的に)、学習目標達成のために必要な本文や資料を選択し構成する教材本来の設計・開発の方法をとることが可能となる (37) とも述べている。

デジタル副読本は紙面のような物理的制限がないため、理論的に設計することで、教科書に準じた単元の関連ページにあわせて地域情報を加えることは十分可能である。



図 11-1. 活用例集

「いなざわ」活用データ

小学校社会科副読本編集委員会

クリックすると、該当のワークシート集、画像データ集、授業例を 開くことができます。

学年	目 次 名	副読本の ページ	ワークシート	画像	授業例
1 年	1 市の様子	2	ワークシート	画像	授業例
	2 はたらく人とわたしたちの暮らし	16	ワークシート	画像	授業例
	1 農家の仕事	18	ワークシート	画像	授業例
	2 工場の仕事	32	ワークシート	画像	授業例
3 年	3 店ではたらく人	44	ワークシート	画像	授業例
	3 暮らしを守る	64	ワークシート	画像	授業例
4 年	1 火事から暮らしを守る	66	ワークシート	画像	授業例
	2 事故や事件から暮らしを守る	80	ワークシート	画像	授業例
	4 市のうつりかわり	96	ワークシート	画像	授業例
	1 市の様子と人々の暮らしのうつりかわり	96	ワークシート	画像	授業例
5 年	5 住みよい暮らしをつくる	114	ワークシート	画像	授業例
	1 水はどこから	114	ワークシート	画像	授業例
	2 ごみのしよりと利用	132	ワークシート	画像	授業例
	6 自然災害から暮らしを守る	148	ワークシート	画像	授業例
6 年	1 地震から暮らしを守る	148	ワークシート	画像	授業例

図 11-2. 「いなざわ」活用データ 4

「いなざわ」活用データ 小学校社会科副読本編集委員会.

www.inazawa-aic.ed.jp/emaks/jyouhou_suisin/shakai/katuyourei_mokuji.html

第5章 地域資源コンテンツの構造化

1. デジタル学習材

(1) デジタル紙芝居

長岡地区に伝わる伝承等をもとにしたデジタル紙芝居「一本松は見ていた」(図12-1)は、かつての長岡小学校教員(川口広樹氏)と保護者により作成された紙ベースの紙芝居(12場面)を元に新たに音声を収録しデジタル化したのである。

本来、紙芝居は「演じ手と観客2人以上が必要」「舞台を使い画面を抜き、差し込む」「表が絵、裏が脚本」「作品が舞台から飛び出し広がる」「共感の感性(場の共有がしやすい)」(38)という特徴があるため、デジタル化においても同様の世界が味わえるように、芝居の始まりにはカーテン幕を付け、拍子木の音を入れた。場面展開に関しては、右から左に画面を抜くアニメーションを付けた。読み手は稲沢市在住のあま市図書館副館長に依頼した。



図12-1. デジタル紙芝居



図12-2. 岐阜女子大学デジタルアーカイブ研究所

※<https://digitalarchiveproject.jp/database/> 【研究】地域課題探求型学習における地域資料の/ (39)

デジタル化した紙芝居は岐阜女子大学デジタルアーカイブ研究所(39)のホームページ(図12-2)に掲載している。紙芝居と同様にナレーション(字幕)のみの動画(図12-3)も音声付きで同ウェブサイトに掲載している(図12-4)。ナレーション版を作成したのは、通常版に字幕をつけるとイメージの妨げになるため、通常版は実際の紙芝居に近い形とし、内容を改めて確認するための文字バージョンを別に作成した。地名などは音声だけでは正確に伝わらない場合もある、また後に、子どもたちが調べ学習に使用するこ

とも考慮した。



図 12-3. デジタル紙芝居（字幕） 図 12-4. 岐阜女子大学デジタルアーカイブ研究所

紙芝居の終盤に流れる楽曲「一本松は見ていた」は、紙芝居の作者であり、この曲の作詞・作曲者でもある川口氏によるものであり、演奏も川口氏自身が行っている。長岡地区の子供たちは、この曲を長岡保育園時代から歌い続けてきているため馴染みがある。また、小学校では、紙芝居に子どもたちが色付けする時間や、朝の読み聞かせの時間に利用されてきた。

しかし、世代を超えて幅広く伝え、残していくためにはオンライン利用が有益であると考え、動画をデジタル化することとした。また、この紙芝居のスク립ト（図 13）もウェブサイトに掲載したため、文字情報として活用することも可能である。

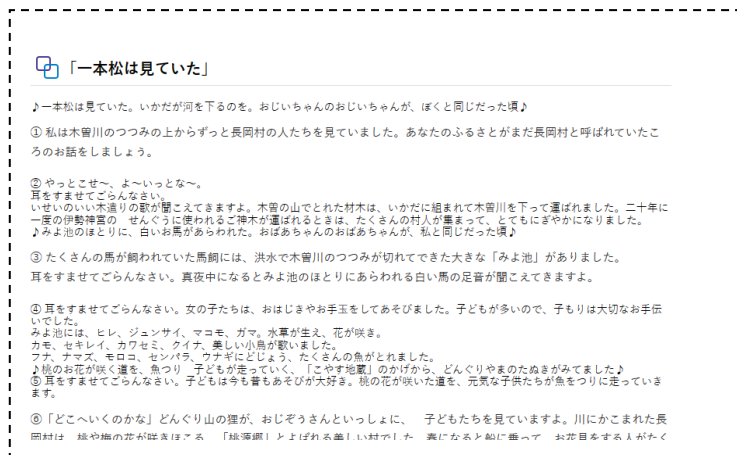


図 13. 岐阜女子大学デジタルアーカイブ研究所 (39) 抜粋

全文を下記（表 6）に記す。作者川口広樹氏。音符印 ♪ は歌の歌詞を表す。紙芝居は全 12 場面である。

表 6 .

1	♪一本松は見ていた。いかだが河を下るのを。おじいちゃんのおじいちゃんが、ぼくと同じだった頃 ♪ 私は木曽川のつつみの上からずっと長岡村の人たちを見ていました。あなたのふるさとがまだ長岡村と呼ばれていたころのお話をしましょう。
2	やっどこせ〜、よ〜いっとな〜。耳をすませてごらんなさい。いせいのいい木遣りの歌が聞こえてきますよ。木曽の山でとれた材木は、いかだに組まれて木曽川を下って運ばれました。二十年に一度の伊勢神宮のせんぐうに使われるご神木が運ばれるときは、たくさんの村人が集まって、とてもにぎやかになりました。
3	♪みよ池のほとりに、白いお馬があらわれた。おばあちゃんのおばあちゃんが、私と同じだった頃 ♪ たくさんの馬が飼われていた馬飼には、洪水で木曽川のつつみが切れてできた大きな「みよ池」がありました。耳をすませてごらんなさい。真夜中になるとみよ池のほとりにあらわれる白い馬の足音が聞こえてきますよ。
4	耳をすませてごらんなさい。女の子たちは、おはじきやお手玉をしてあそびました。子どもが多いので、子もりは大切なお手伝いでした。 みよ池には、ヒレ、ジュンサイ、マコモ、ガマ。水草が生え、花が咲き。カモ、セキレイ、カワセミ、クイナ、美しい小鳥が歌いました。フナ、ナマズ、モロコ、センパラ、ウナギにどじょう、たくさんの魚がとれました。
5	♪桃のお花が咲く道を、魚つり 子どもが走っていく、「こやす地藏」のかげから、どんぐりやまのたぬきがみてました ♪ 耳をすませてごらんなさい。子どもは今も昔もあそびが大好き。桃の花が咲いた道を、元気な子供たちが魚をつりに走っていきます。
6	「どこへいくのかな」どんぐり山の狸が、おじぞうさんといっしょに、子どもたちを見ていますよ。川にかこまれた長岡村は、桃や梅の花が咲きほこる、「桃源郷」とよばれる美しい村でした。春になると船に乗って、お花見をする人がたくさんやってきました。

7	♪さとのき, 桑の実, さつまいも, こどものおいしいおやつです。おびしゃ, もちなげ, どんど焼き, 白髭神社のおまつり ♪ 耳をすませてごらんなさい。げたをはいた子, ぞうりの子, はだしの子, みんな元気に笑っていますね
8	白髭神社では, その年かざったかど松やしめかざり, 書き初めをやいた火でもちをやいて食べる「どんどやき」がありました。 矢をいって, その年の作物のできを占う「おびしゃ」, わざわいが起きないように, 健康にすごせるようにもちをまく「もちなげ」。子どもたちが楽しみにする行事がありました。
9	♪ 馬飼, 四貫, 拾町野, 西鶉之本に神明津, とどめき川と木曽川に囲まれた村の物語 ♪ 耳をすませてごらんなさい。長岡村の東を流れる佐屋川は, 大雨が降ると川の水が逆流して, ゴボゴボと不気味な音を立てました。川があふれる前触れだったのです。村の人から「とどめきがわ」と呼ばれていました。
10	長岡村は, 木曽川よりも低い土地でしたから, 大雨が降ると村中が海のようになっていました。朝, 子どもたちは, ひざまで水につかりながら学校に通うこともありました。
11	長岡村のお話は, これでおしまいではありません。あなたがこのお話をだれかに話し, そのだれかが他のだれかに話し, そのだれかが他のだれかに話したら, このお話はずっとつづいていきます
12	♪おばあちゃんが私に昔話をしたように, いつか私も長岡の昔話をするでしょう ♪ 長岡に住む人たちの声が聞こえてきますよ。私はいのります。あなたが, この長岡に生まれてよかったと思いながらおとなになっていってくれることを。 長岡の一本松

(2) 静止画素材による地域マップ

紙芝居「一本松は見ていた」に関連する地域の主要マップとして Google マップを作成した(図 14-1)。地域の主要箇所 6 カ所の撮影を行い, Google マップで位置情報を表示した。各位置ポイントに写真を貼り付け(図 14-2), 岐阜女子大学デジタルアーカイブ研究所の URL(39) をリンク先とした。リンク先(図 14-3)ではポイント箇所(以下 6 カ所)のタイトルがあり, タイトルからは, 静止画と説明文につながる(図 14-4)。

1. 史跡とどめき川渡船場跡 2. 旧佐屋川野田渡船場跡 3. 水屋 4. 地泉院 5. 愛知県西中野渡船場 6. 白髭神社

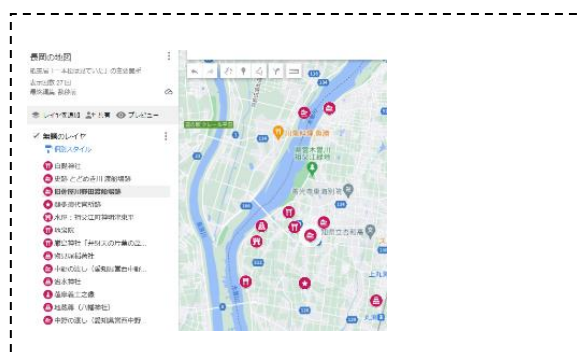


図 14-1. Google Map



図 14-2. 例) 史跡とどめき川渡船場跡

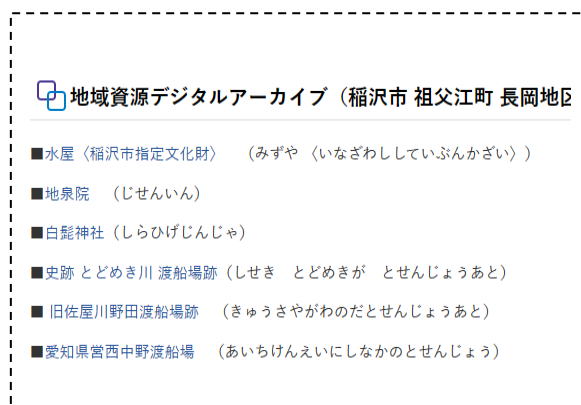


図 14-3. 岐阜女子大学デジタルアーカイブ研究所 (39)



図 14-4. 例) 史跡とどめき川渡船場跡

（３）オーラルヒストリー（地泉院住職の話）

長岡地区（神明津）にある地泉院（40）は、約 600 年の歴史があり古文書等にもたびたび登場する。地泉院の本尊は、奈良時代行基菩薩作の子安延命地蔵尊であり、弘法大師空海が日本に伝えた真言密教のお寺である。尾張徳川侯も篤く帰依され、本尊に納めてある御厨子は尾張徳川家御寄進のものと言われている。新型コロナ感染症の流行以前は、地域の小・中学生が学校行事として訪れ、住職へインタビューを依頼していたが、ここ数年は行われていない。メディア露出はほとんどされることがないお寺であるが、今回は地元の子どものための学習目的と長岡地区のアーカイブを残したいという思いに共感いただき、音声での記録を引き受けていただいた。

住職へのインタビュー内容は全部で 6 問である。事前準備として、質問項目を用意してお渡しした。質問内容は、お寺で行われている行事や、古文書などに書かれている既知の内容を口頭で確認する形である。収録場所は地泉院内であり、日常的に講和をされている場所で落ち着いた環境で行うことができた。表 7 に質問項目と内容の出典を記す。

表 7. 質問項目と内容の出典

	質問内容	出典
1.	十万体地蔵流しについて	『祖父江町史』P. 1231 (17) 「十万体地蔵流し（川施餓鬼）十一月第一日曜日、地泉院（神明津）では、昭和四年木曾川・給父渡船の転覆遭難により多数の人命が失われ、対岸秋江（岐阜県側）の船頭さん等の依頼もあって、十一月二十三日現在は第一日曜日に地蔵の刷り物（木版印刷）十万体を読経の後に川に流して（流れ勧請）遭難者ならびに魚介類の供養を続けている。」
2.	神明津には現在も水屋が残っている。地泉院も水害対策をしていたか。	『祖父江町史』P. 1195～1196 (17) 長岡地区の水屋分布図。

3.	尾張徳川家からの寄進について。	地泉院の歴史 (40) 本尊子安延命地藏尊（秘仏）は、奈良時代、行基菩薩作。本尊地藏菩薩を納める御厨子（おずし：仏像を安置しておく具）は、尾張徳川家により寄進されたものです。
4.	「地泉院の大松」について	『みよ池の里』P. 37 抜粋（図 6-2）,（表 2） これは、八十才になるうちのおじいさんに聞いた話です。地泉院には昭和六年まで、しゃしんのような大空にそびえる大きな松がありました。高さは、二十八メートル、太さ（目の高さで）四メートル、樹令六百年の大松でした。昔は「地泉院の大松」といって、おまいちにくる人のめじるしで、長良川のていぼうからもよく見えたそうです。 大正十三年の台風の時など、ビュービューと大きな松風の音で、ひとばんじゅうこわくてねむれなかったそうです。昭和六年、木曽川のていぼうが今の場所にうつった時、おいしいことにこの大松は切られてしまいました。
5.	「北向地藏」について	『尾張名所図会 後編二』（41） 「春光山浄安寺地泉院（同村にあり、真言宗、名古屋大須真福寺末。むかし長岡山長楽寺という大梵刹ありて、十二坊ありしが、廃亡して此地泉院一坊のみ残れり。長楽寺は往古の開基にて、応永年中（1394 年～1428 年）、真福寺の二品任瑜法親王兼帯し給ひしが、その後荒廃せしとぞ、本尊地藏菩薩は行基菩薩の眞作なり。此地蔵堂もと北向にてありしが、木曽川の堤を往来する者、駄馬に

		のりて過れば, 必ず堂の前にて落馬す。故に下馬地藏と称しける霊像なり。里民乗馬の障りを愁へて, 今は堂を他方にむけたけれど猶, 北向地藏ともよべり)
6.	神明津の渡し舟について	『祖父江町史』 P1207・1208 (17) 諸河川の貫流する低湿地域であるので, 各地で舟運があったようであるが, 殊に旧長岡地域では, 木曾川・佐屋川を利用する交通も多く, また池も多かったので, 舟はよく利用された。 江戸時代の船を所有していた村々を「寛文村々覚書」により略しても次のようになる。(略)とあり, また対岸から渡船を渡している例(八神渡し)もあった。なお, 旧佐屋川野田渡船場跡, とどめき川渡船場跡, 八神渡船場跡が町文化財指定(史跡)となっている。

以上6つのテーマについて, 住職の一人語りの形でお話しいただいた。聞き手は同地域在住で, 住職とは幼馴染の方に依頼した。地元の方であってもこれまで聞いたことのない話や, 改めて確認できたことなどがあったようで, 収録時間の約1時間を過ぎても話は続いた。近年, 大方のことはインターネットで調べられるが, こうしたローカルな話は, 地域に代々居住している人々の口伝により語り継がれることが多い。特にかつて大水の被害があった地域は, 水害により形を留めている資料が少なく, 口伝情報が大変貴重である。これらの音声資料は, 小学校の学習材として使用する目的であるが, 地域の大人にも伝えていきたい内容である。音声を記録する意義は, その土地の言葉や話し方によるニュアンス, イントネーションなどを伝えることがある。ただし, 地元の人でなければわからない土地の名前や言い回しなどが含まれるため, 文字起こしの際にはキーワードを補足することとした。一つの質問を5分程度と短く設定したのは, 子ども

たちの集中力や授業内での使用を考慮したためである。

これらの音声動画はデジタル化して静止画と同じく岐阜女子大学デジタルアーカイブ研究所 (39) のホームページ (図 12-2) に掲載している (図 15)。内容の文字起こしは, 表 8-1 に記す。



図 15. 地泉院住職のオーラルヒストリー 岐阜女子大学デジタルアーカイブ研究所 (39)

表 8-1. オーラルヒストリーの文字起こし

質問①	「十万体地藏流し」について
	地藏流しは, 昭和 4 年 (1929 年) に, 今の東海大橋のあるところに渡船場があつて, 愛知県の人が岐阜県に行き, 岐阜県の人が愛知県に来るといふ船に乗って, 渡船場があったわけですが, その船が, 沈没しまして多くの方が亡くなられた。亡くなられて, その時に船を漕いでいた船頭さんが毎晩夜になると首を絞められると, ちょっと怖い話ですが, 首を絞められて何日も寝ていない。地泉院のその時の住職, 21 世の<u>大僧正榮順大和尚</u>のところに, なんとかしてくださいと相談にみえた。そうしたら, 榮順僧正が「それは魂が救いを求めとるから, 供養して救ったらなあかん」と言うことで, 早速「今からお地藏さんを刷れ」と言って・・・ 今用意してきましたけど, こういうお地藏さんを (和紙にお地藏さんの画のある手の平サイズのもの) 刷ってね, 「地藏流しで供養する今から来い」と言って, 供養して, 地藏流しをして, そうしたらその船頭さんは夜寝れるよう

になりまして、で毎年供養を、地蔵流しをやるということになってずっと供養してきました、数年経つてくるとね地蔵流しに参加した人がいいことが起きるということになってきてまして、例えば子が長年授からなかった人が授かったりとか、良縁に恵まれたりとかね。そういうことがあってですね、そこらへんからいつの間にかね、塔婆にもね、安産祈願とかね、家内安全とかね、そういうことも書いて流すようになったんですね。

そういうことで、ずっと続いて、最初の頃はですね、中堤（ナカテイ）と言って木曽川と長良川の堤防ね、あそこまで、私の小さいことまでは行っていた、だから 40 年ぐらいまではみんな船に乗って、中堤に行って、一日がかりで供養をやっていたんですがね、今じゃ絶対許可がおりないです。そういうことをやっていてですね、それが今やることに関して許可が大変で、ですね、今は数年前から池でやっております。地泉院の中の今蓮があるところの池で、蓮が終わると何もなくなるので、そこで供養してというようなスタイルに変わっておりますね。

Q. 具体的にはどういうことをされるんですか？これを流すんですか？

A. 最初お経をあげて、時間が来たらみんな一枚ずつね、お地蔵さんの真言を唱えながら、オン カカ、カビサンマエイ ソワカ、オン カカ、カビサンマエイ ソワカと 1 枚ずつね。このお地蔵さんに亡くなった魂が救われていくわけで、

（先ほど）言うのを忘れたんですが、日ごろ私たちは色んな衆生、生きとし生けるもの、豚さん、牛さん、鶏さん、お魚、貝、魚介類そういう命をいただいているんで、すべての生きているものに対しての供養をするように昔からなっている。よく養鶏業者の人とか、牛さん豚さん飼っていらっしゃるそういう人たちも昔は地蔵流しに参加されて一緒に供養していたんですね。あらゆることの供養ということでね、続いております。今年で、令和 5 年 2023 年、今年の 11 月で 95 回目ですね。なんとか 100 回まではいきたいと頑張っております。

※大僧正榮順大和尚（ダイソウジョウエイジュンダイワジョウ）

	
--	--

表 8-2.

質問②	神明津には現在も水屋が残っている。地泉院も水害対策をしていたか。 うちに限らず、この地域は水害に悩まされた地域で、うちのお寺に限らずこの地域の仏壇というのは下の部分がすごく高いんですよ。なんか水に浸かっても仏様だけは守るという考え方で、畳の上から1メートルぐらいあるような、うちの本尊様を納めるのも高くは作ってあるんですけども、今のまさに地面と同じぐらいの高さしか堤防の高さはなかったみたいなので、本当に大水が来ると堤防から手を洗えるというぐらいのそれぐらいのやわな堤防だったので、切れますよね。それでダーッと入ってきて、それでうちに定期的にみえる堤防とかの設計される方がおっしゃっていましたが、そういう昔の被害が多いんで、この木曽川の堤防というのは、A級クラスで今3段になってますかね、すごい強靱な堤防を作っているんで、まずよっぽど現在は大丈夫でしょうというお話です。 
-----	---

表 8-3.

質問③	尾張徳川家からの寄進について。
	家紋と言わず,お寺は寺紋(ジモン)と言います。寺の紋と書いてじもんです。なんでそうゆう風になったかという、寺に伝わっていることによりますと、まさに関ヶ原の合戦の時に徳川軍は清州城におりましたよね。そっからみんないろんな方面に分かれていって、その一派が木曾川に差し掛かった時に地泉院に一泊しているんですね。一泊していて戦勝祈願をしました、勝てるように祈願して関ヶ原に向かったという話なんです。関ヶ原で徳川軍は勝ったので、そのお礼に本尊様を納める御厨子(オズシ)、本当に大きいんですけど、その御厨子を御寄進していただいた、その時から葵の紋が寺紋になったということです。 そこにも江戸時代の瓦ありますけど、葵の紋がついていたり、本尊様を納めている御厨子も宮大工さんに聞くと、現代にこの同じの作ってもらうといくら位かかりますかと聞いたら、1億5千万はかかるとおっしゃっていたので、すごいものを御寄進していただいているんですね。まあ本物か嘘かっていう話に仮になったとして、昔、江戸時代とかに偽物の葵の紋を付けると打ち首でしたので、まあ偽物ではないと思います。実際古いものとかに葵の紋が付いていたりね。あと、海津のお寺とかですね、まさにうちと同じような境遇のお寺が、行く前に行脚して？帰った後、関ヶ原の戦いで勝ったということで御寄進を受けて復興されたお寺もあったりするので、海津と言えば有名な松平藩？高須藩の松平のお殿様、大河ドラマでも出てきましたけど、高須城がある。高須城というのは尾張徳川家の中でも上の位で、実際、尾張徳川藩が世継ぎがなくなると二代ぐらいその高須藩から送られてお殿様になってますからね、地位としてはすごい高いですけどね、<u>高須城</u>※って昔あったんですけどね。 そういう感じもあって、徳川家といろいろ関係があったんじゃないかなと、さっきの大水の話じゃないですけど、このお寺も散々大水に浸かっていますので、そういう資料がなくて、公の資料から言い伝えでしかそういうことはわかっていないんですけど。そういう関係で葵の紋があります。よくお参りに見えた方によく質問は受けます。

※『祖父江町史』P. 57 に高須城の記載あり。



表 8-4.

質問④	「地泉院の大松」について
	非常に大きな大松で、すごく大切にされていたんですが、地泉院の土地はそもそも、もっと西の方に木曾川の方に境内地はもっと広がったらしくて、聞くとところによると半分ぐらいは堤防になってしまったらしい、まさにその部分に大松があってその堤防の拡張により残念なことに切らなくてはいけなくなってしまったという話がありまして、今だったら反対運動が起こるでしょうけど、その時代は国がいうとそれを通してしまうような感じだったんじゃないでしょうかね。写真を見てもすごくデカいですよね。恐ろしいくらいデカい。すごくもったいないですよ。

表 8-5.

質問⑤	「北向地蔵」について
	尾張名所図会っていう江戸時代の旅行ガイドみたいなもの、観光ガイドですね。そういうのがありまして、その中に地泉院が出てくるんですけども、その中に下馬地蔵（げばじぞう）ということで、載ってまして、地泉院の本尊様の前を通っていくときに馬から降りてちゃんと手をあわせていかないと、馬から落ちると、あまりにそうゆうのが続くから、本尊様を北向きにしろということをしたということと言われております。仏様・神様というのは、基本的に南か東向いてお祀りするというのが基本なんですけどね。例外の北向き地蔵さんとか、北向き不動尊とか。たまに書いてあったりしますけど、基本は南か東を向いてお祀りするのが、お札とかもね、仏様・神様の分身であるお札とかも南向きか東向きでお祀りするのが本来なんですけれども、あまりにみんなが恐れたもんでひっくり返した、それもまあ今はもちろん元に戻していますけどね。それぐらい霊験あらたかだったんじゃないでしょうかね。
	

表 8-6.

質問⑥	神明津の渡し舟について
	神明津という名前は、神明社が、大きな神明社が堤防のところにありますけど、その神明をとって、津というのは港、船着き場、渡船場とか、ようは港ですね、そういう意味があって神明津というこの土地の名前だと思う

のですが、その神明社は昔からお伊勢参りで、木曾川を船でワァッと渡って、長良川も昔つながっていたからそうですね。船で行ってお伊勢参りに行く途中に、必ずその神明社に降りてお参りしてからお伊勢さんに向かっていたという、そういう由緒ある神社なんですね。

なかには金毘羅山も、金毘羅山のお社も昔あったんですよ。それが数年前になくしちゃったみたいなんですけど、私も知らない間に。金毘羅山っていうのは、四国の香川に金毘羅山ってあるんですけどね、金毘羅大権現はですね、海上交通の守り神、海の神様という、そういう神様なんですけど、まさにこれから海に向かっていく、水に関するものなんで、それで金毘羅山を祀っていたんじゃないかと思いますけどね。昔は橋がないので、渡し船というのがものすごく重要で、必ずみんな、実際うちにお参りにみえる方、岐阜県の方も、まだ生きていらっしゃるんじゃないですかね、小さい頃は渡し船に自転車乗せてここまでお参りに来たという、そういう話を今でも、もうぎりぎりぐらいじゃないですかね。親に連れられてお参りに来ましたというのはちょこちょこまだ聞きますんでね。



以上のオーラスヒストリーからも長岡地区が昔から水との関係が深い地区だということがわかる。水の恩恵を受けると同時に、大水に悩まされた歴史があった。音声収録後の雑談のなかでは、神明津と藤ヶ瀬の間に流れていた「間の川」の話（八開村史 P. 248（42）に記述あり）になった。図 16-1. 図 16-2. のように、かつての長岡地区は四方を川に囲まれた輪中地域であった。旧八開村（現愛西市）の古老によると、現在でもこの

「間の川」の痕跡がわかる場所があるという。幼少期には、間の川とつながっていた佐屋川でよく魚を取っていたとこのことである。また、神明津より南東に「川北」という地名があるが、この川とは「間の川」のことであり、その北側に位置することから「川北」という地名になったのだという。

小史「一本松の子ら」(図 6-1) や「みよ池の里」(図 6-2) の寄稿文にも、現在は存在しないこれらの川の名称や当時の様子を知る人々の思い出話しが書き記されている。

史実では、明治 33 年 (1900 年) ※に佐屋川は締め切られたとあるが、現在 70 代の方が幼少期に佐屋川で魚を取ったというのは昭和時代である。このことがわかる記述が小史『一本松の子ら』にあった。下記に抜粋する。※または明治 32 年 (1899 年)

(略) 明治二十九年の鵜多須切れのあと、明治三十二年に佐屋川がしめ切れられたのですが、その後も昭和十年頃に埋め立てられるまでは拾町野から川北の手前まで、深い沼と砂丘のような高い堤防となって残っていました。鵜野本の東側あたりは堤の下からすぐ深くなり、東の岸近くには葦もはえていましたが、夏、泳ぎにいったりすると、途中、中程で少し足のつくところがあるぐらいで、あとは背の立たない程の深さでした。

(略)

この他にも小史には様々な川との思い出が記録されており、それらの記録をつなぎあわせると、豊かな昔の長岡の風景が思い起こされる。地域の方から当時の様子を聞き取り、記録することで過去の土地の様子が甦るのである。そうした土地の記憶は、後世の人々にとっても必要となるだろう。これらはかつて、子から孫へと語り継がれた話であるが、現代では、そのような風習も薄れ、時代と共に風化してしまうのではないかと懸念する。

2019 年 4 月 27 日の中日新聞の見出しに「佐屋川 本当に流れていた？」とある。大見出しは「2 本存在？1 本は廃川」である。この記事は「わが街探偵団」という特集で、購読者からの質問に記者が調査するというものである。質問者は稲沢市在住の当時 31 歳、質問を要約すると「大昔、佐屋川という大きな川が流れていたのは本当か、川の跡がところどころにあるという噂をきいた」という内容である。

記者はこの問いに対して、「川はかつて稲沢市祖父江町馬飼付近から木曽川に分流し、弥富五明付近で再び合流した。江戸中期の地誌「尾張徇行記」によれば、川幅が「二百

三十九間（約四百三十五メートル）にわたった所もある」としている。さらに地元の専門家を訪ね「明治三十年代に水害対策で分流点が締め切れ廃川となった」と記している。分流点というのは、馬飼付近のことであるのか。稲沢の昔ばなし「砂山の化かし狐」の祖父江の拾町野・沼山（図 8-1）のハンドライティング図では馬飼の辺りから佐屋川が流れている。しかし、名古屋大学附属図書館所蔵の木曾三川流域大絵図高木家文書（図 5.）や今昔マップ on the web (21) の 1888 年代（明治 21 年頃）の長岡（図 9-2）では、馬飼よりも北に位置する拾町野から分流している。

中日新聞の記事は、現在、祖父江町よりも南に位置する蟹江町に流れている佐屋川に言及し、これが廃川の名残なのか、または別の川として 2 本あったのか、“大河”の謎は深まった」と締めくくっている。

こうしたことも、地元の方から話を聞き、記録として残すことで全貌が見えてくるのではないだろうか。かつての佐屋川の記憶を持った方々の話を記録に残し、次世代に伝える必要がある。

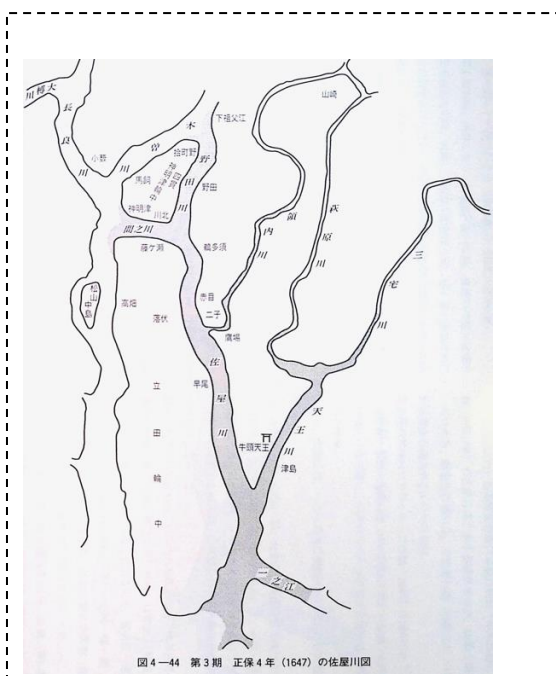


図 16-1. 1647 年佐屋川図 (42)



図 16-2. 間之川 (図 18-1 の拡大図)

2. デジタルコンテンツの利用

(1) デジタル教材を使用した授業指導案

①知識構成型ジグソー法による授業提案

前章では、地域資料を子どもたちにわかりやすい表現でデジタル化することを試みた。次にその資料を利用して学習単元に沿った授業提案を行い、地域学習の定着を促すこととする。対象者は長岡小学校第4学年である。子どもたちは、第3学年の社会科単元「わたしのまちみんなのまち」で学校のまわりについて学んでおり、第4学年の社会科単元では「きょう土の伝統、文化と先人たち」を学ぶため、教科横断学習として総合的な学習の時間のなかで「昔の長岡の人の暮らし」を単元として設ける。

児童観については、長岡小学校は、木曽川近くに隣接している小学校であり、木曽川河川堤防の清掃活動が恒例行事となっていることから、木曽川や馬飼大橋については馴染みがある。また、6月には田植えの経験、冬には木曽川でサツキマスの稚魚を放流し、春には戻ってきたサツキマスで郷土料理学習を行う等、周辺の自然環境を生かした体験を学校行事の中で学んでいる。

今回の授業提案としては、知識構成型ジグソー法を用いた協働的学習により、昔の写真や地図と現在の写真や地図を比較することから始める。エキスパート活動では、デジタル資料を元に「史跡とどめき川渡船場跡」「旧佐屋川野田渡船場跡」「愛知県営中野渡船場」について小グループに分かれて調べ学習を行い、クロストークでは新たなグループ内で情報の共有、比較、吟味を行うことで、総合的に先人が築いてきた川と人との関係について学ぶことをめざす。

(2) 知識構成型ジグソー法を用いた協働学習授業

表 9. 授業案

知識構成型ジグソー法を用いた協働学習授業 授業案			
学校名 稲沢市立長岡小学校		授業者 ●● ●●	
教材作成者 伊串美香			
授業日時	令和 5 年 ●● 月 ●● 日	教科・科目	総合的な学習
学年・年次	小学校 4 学年	児童生徒数	15 名
実施内容	昔の長岡の人の暮らし	本時/全時数	1 / 9
学習材	デジタル学習材（紙芝居動画・静止画・地図・年表） Google マップ, 今昔マップ他 Web サイト, ワークシート		
○授業のねらい（本時の授業を通じて児童に何を身に付けて欲しいか, この後どんな学習につなげるために行うのか）			
長岡地区は昔, 川に囲まれた輪中地域であった。川の恩恵を受けながらも水害に悩まされた地域である。現代に残された痕跡をたどることで, 先人が築き守ってきた土地のことであり, 地域の人々とのつながりの大切さを感じるとともに, そのルーツを継ぐものとしての意識を持ち, 後世に伝え残していくことを期待する。			
○メインの課題（授業の柱となる, ジグソー活動で取り組む課題）			
150 年前（明治時代）の長岡地区はどんな場所だったのか。			
○児童・生徒の既有知識・学習の予想（対象とする児童生徒が, 授業前の段階で上記の課題に対してどの程度の答えを出すことができそうか。また, どの点で困難がありそうか。）			
3 年生の社会科単元「わたしのまちみんなのまち」で学校のまわりについて学んでいる。また, 木曽川近くに隣接している小学校であり, 木曽川のクリーン活動などを行っていることから, 木曽川や馬飼大橋については馴染みがある。また, 6 月には田植えの経験, 冬には木曽川でサツキマスの子魚を放流し, 春には戻ってきたサツキマスで郷土料理学習を行う等, 周辺の自然環境を生かした体験を学校行事の中で学んでいる。			

この地に長く住む家庭では、地域の話はよく話題にのぼる内容であると想定される。他から移り住んだ家庭の子にとっては、以前の暮らしとの比較のなかから気づきを得られるものとする。3年生の社会科単元「市のうつりかわり」で道路、鉄道、土地や人口の変化などを学んでいるが、デジタルネイティブの子どもたちには、電化製品がない時代のことや、川には橋もなく、車や鉄道が通っていない150年前（明治時代）の暮らしを想像するのは難しいと予想される。

○期待する回答の予想（本時の最後に児童生徒が上記の課題に答えるときに、話せるようになってほしいストーリー、答えに含まれていてほしい要素。本時の学習内容の理解を評価するための基準）

- ・木曾川と同じくらい大きな佐屋川という川が流れていた。
- ・橋ができるまでは、川を渡るために渡し舟を使っていた。
- ・長岡地区は昔「長岡村」だった。
- ・水害から身を守るために「水屋」があった。
- ・長岡地区は輪中地域であった時代がある。

各エキスパート〈対象の児童生徒が授業の最後に期待する解答の要素を満たした解答を出すために、各エキスパートで抑えたいポイント、そのために扱う内容・活動を書いてください〉

昔はあって、今はない。「〇〇跡」の理解をさせたのちに、今昔マップで今と150年前の長岡の地形を比較する。

エキスパート活動では、Webサイトの静止画を利用する。

A:史跡とどめき川渡船場跡 B:旧佐屋川野田渡船場跡 C:愛知県営西中野渡船場

ジグソー活動では、元のグループにもどり、それぞれ得た情報の共有、比較、吟味を行うことで、総合的に先人が築いてきた川と人との関係について学ぶことをめざす。

書記と発表者を決め、この後のクロストークで全体への発表を行う。

※授業のはじめに「長岡地区について知っていること」を書き出し、授業の終わりにも同様の書き出しを行う。ワークシートには長岡地区の地図と静止画のWebサイトのQRコード、授業後に自らの理解度を自己評価する1～10までの数字を記載してある。

ジグソー活動でわかったことを踏まえて取り組ませたい発展的な課題（なしでも可）

・学んだことを家庭に持ち帰り,関連の話しが展開されれば,次回以降の学びに有効となる。

グループ構成

○エキスパート活動・・・5人×3グループ　3種類

○ジグソー活動・・・3人×5グループ

表 10. 本時（1 限目）の授業案

令和 5 年●月●日（木）●校時 児童：稲沢市立長岡小学校 4 年 指導者：●●●●			
1 単元「昔の長岡の人の暮らし」 2 本時のねらい ・昔の長岡地区に関心をもつとともに、Google マップを使用して今と昔の長岡のちがいに気づき、ジグソー活動を通して他者の視点を取り入れ、単元の学習の見通しを立てることができるようにする。 3 授業の視点 ① 昔の様子がわかる写真や地図から昔と現在との違いや暮らしの変化に気づかせる。 ② デジタル学習材を使用して、一人一台の端末により、それぞれの判断で見つけた情報をグループに共有し、話し合うことで学びを深め理解を促す。 4 本時の展開			
過程	主な学習活動	教師の働きかけ	留意点
(導入) 課題把握 5 分	○写真 A、B を提示する。 ○今の学校を提示する。 ○昔の河川の写真を提示する。 ○「跡」の説明	・両方とも同じ施設です。どこだと思いますか。（学校） ・どちらが古いでしょうか。理由も考えてみましょう。（A） ・次の写真も古いです。これは何をしているところでしょう。（船） ・場所はどこでしょう？ ・住所がわかるので Google マップで探してみましょう。 ・「跡」は以前にあったことが残っている印です。 ・船以外の昔の交通手段は？	・写真 A（大正始め）※約 100 年前 ・写真 B（昭和 59 年）※約 40 年前 ・今の学校を電子黒板で拡大して確認する。 ・Google マップを電子黒板でみせる。 ・「八神渡船の跡」を確認する。
	○今日の課題を考える。	・今日は何を学ぶ時間になりそうですか。 課題：「昔の長岡の人の暮らし」をみつけよう。	
(展開) 課題解決 5 分 10 分 10 分 10 分	○長岡について知っていることを書き出す。 ○昔と今の長岡の地図を比較させる。 ○気づきを発表させる。	・建物やお祭り、行事、自然のことなど、知っていることを「はじめに」の欄に書きましょう。 ・Google マップで今の長岡を確認しますよ。 ・「今昔マップ」を見て、分かったこと、気付いたこと、考えたことをノートに箇条書きしよう。 ・今の様子と比べてみましょう。 ・一つ目の気づきが書けたら見せてください。 ・全体への発表でさらなる気づきを促す。	・長岡の 5 つの地区名を確認する。 ・今昔マップを電子黒板で拡大。 ・各自の端末で違いを探す ・全員に参加。
	○エキスパート活動	・A:史跡とどめき川渡船場跡 ・B:旧佐屋川野田渡船場跡 ・C:愛知県宮西中野渡船場	・配布資料の QR コードを読み取りグループで調べる
	○ジグソー活動	・元のグループに戻り、それぞれに分かったことを説明しあう	・書記と発表者を決める
	○クロストーク	・各グループでまとめたことを発表する	・教師は電子黒板に書く
振り返り 5 分	○まとめ	・授業前の最初に長岡の知っていることを書いてもらいました。ワークシートの「おわりに」に今わかっていることを書きましょう。	・

（３）配布資料

授業に関連する紙の配布資料を２点準備した。資料の文字フォントには「UD デジタル教科書体」を使用。「UD デジタル教科書体」とはデジタル教科書のためのユニバーサルデザイン書体であり、そのデザインは太さの強弱を抑え、ロービジョン（弱視）、ディスレクシア（読み書き障害）に配慮したものである。

エキスパート活動で使用する紙の資料には、デジタル学習材である岐阜女子大学デジタルアーカイブ研究所⁽³⁹⁾の QR コード（図 16）を付与した。QR コードは紙芝居「一本松は見ていた」に登場する長岡地区の静止画及びオーラルヒストリー（音声記録）にリンクする。

- ① エクスパート活動の資料 1.（表 11-1.）
- ② エクスパート活動の A グループの資料（表 11-2.）
- ③ エクスパート活動の B グループの資料（表 11-3.）
- ④ エクスパート活動の C グループの資料（表 11-4.）
- ⑤ エクスパート活動の資料 2.（表 11-5.）
- ⑥ 年表「祖父江町のうつりかわり」（表 11-6.）

表 11-1. 「昔の長岡の人の暮らし」 配布資料 1.

昔の長岡の人の暮らし		4年 組 番 氏名 _____
はじめに:長岡のことで知っていること(自然、たてもの、お祭りなど)を書きましょう。		2019 年 長岡の地図  自分の点数 どのくらいわかったかな 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 👍 ジグソー活動で使う QR コード  図 17.
エキスパート活動(_____ グループ)		
ジグソー活動(自分のグループ以外)		
おわりに:長岡のことでわかったこと書きましょう。		

図 17. 岐阜女子大学デジタルアーカイブ研究所(39)の QR コード



表 11-2. 「昔の長岡の人の暮らし」 エキスパート活動 A グループの配布資料

昔の長岡の人の暮らし	4年 組 番 氏名 _____
【エキスパート活動 A グループ】 祖父江町のうつりかわり P.43 今から 100 年以上前（明治 39 年：1906 年），祖父江町，山崎村，領内村，丸甲村，牧川村がいっしょになり，大きな祖父江町になりました。昭和 31 年（1956 年）には，長岡村といっしょになり，今の広さの祖父江町となりました。 町には，木曾川や佐屋川が流れていて，なんども大水で困っていました。明治 22 年（1889 年）からおよそ 20 年かけて木曾川，長良川，揖斐川の流を分ける工事が行われました。この工事の中で佐屋川はしめ切られ，川のあとは広い田になりました。木曾川のていぼうは，じょうぶなものに直されましたが，その後ももっとじょうぶなものにする工事がつけられました。 参考資料：平成 8 年 4 月『わたしたちのまち そぶえ』P43.	
■ 調べてわかったこと、気づいたこと	

表 11-3. 「昔の長岡の人の暮らし」 エキスパート活動 B グループの配布資料

昔の長岡の人の暮らし	4年 組 番 氏名 _____
【エキスパート活動 B グループ】 昔のようすをつたえるもの 八神かい道は，昔の道のようすを伝えています。祖父江の中沼に残る道しるべは，中野の渡し，起，津島がどちらの方になるのかをしめしていて，旅をする人々にはとても大切なものでした。昔は，木曾川や佐屋川には橋がなく，渡し舟でわたりました。中沼（祖父江）には「八神の渡し」のあと，野田（牧川）には「野田の渡し」のあとがあります。佐屋川は，はばが 160m もある大きな川でしたが，120 年ほど前（明治 33 年：1900 年）にせき止められ，小さな川になりました。今でもむかしのていぼうが牧川の島本，野田，中牧，長岡の西鶴之本，四貫などにのこっています。祖父江と山崎の間にある広口池は，領内川が江戸時代に大きな川であったころのようすを伝えています。 参考資料：平成 8 年 4 月『わたしたちのまち そぶえ』P47.	
■ 調べてわかったこと、気づいたこと	

表 11-4. 「昔の長岡の人の暮らし」 エキスパート活動 C グループの配布資料

昔の長岡の人の暮らし

4年 組 番 氏名

【エキスパート活動 C グループ】

鉄道がしかれる

町には古くから八神かい道が通っていましたが、町ぜんたいの交通は、あまり便利ではありませんでした。そこで、一宮と弥富を結ぶ鉄道をしく運動がおこり、弥富から萩原まで鉄道で結ばれ、明治32年（1899年）に森上駅ができました。次の年、弥富と一宮の間の鉄道が完成しました。

新しい道や橋ができる

昭和40年頃までは、町の広い道といえば、町の中央を通る県道尾西津島線くらいのものでした。そこで、田や畑を整える仕事といっしょに、道も整えられていきました。昭和51年（1976年）に馬飼大橋ができると、岐阜県の羽島市、海津市などとの結びつきが深くなり、多くの人々が車で行き来するようになりました。その後、町の中央を県道馬飼井堀線が稲沢市を通る155号線とつながるとさらに便利になりました。

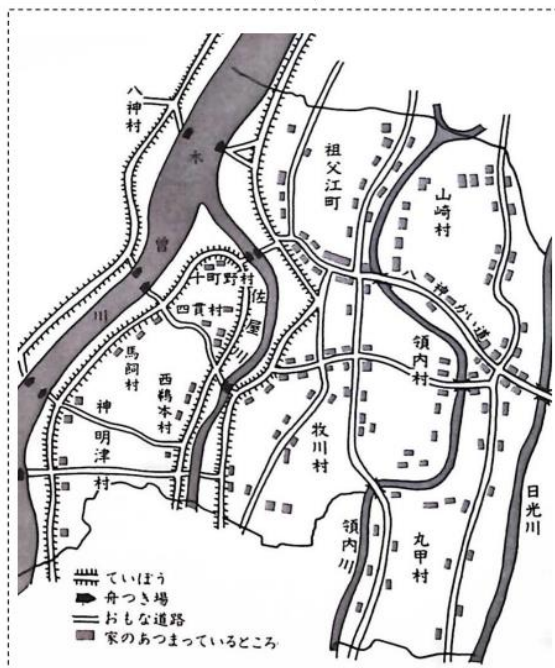
参考資料：平成8年4月『わたしたちのまち そぶえ』P44, P45.

■ 調べてわかったこと、気づいたこと

表 11-5. 「昔の長岡の人の暮らし」 配布資料 2.

明治時代の長岡のようす

4年 組 番 氏名



■ 今の長岡と同じところ、ちがうところはどこ？

参考資料：平成8年4月『わたしたちのまち そぶえ』P.43

表 11-6. 年表

祖父江町のうつりかわり

今から	時代	和暦	西暦	時代の主な出来事	自然災害	川の出来事	その他の出来事
約400年前	江戸時代	慶長8年	1603	江戸幕府が開かれる			
		慶長13年	1608			御園堤の工事がはじまった→1609年まで犬山から弥富まで約50キロ	
約360年前		万治2年	1659			木曾川に大出水、馬飼村にて堤切れる	「馬飼の一本松」植樹
		宝暦3年	1753			木曾三川(木曾川・長良川・揖斐川)をわける	
約200年前		文政7年	1824			宝暦治水工事(宝暦4年2月～宝暦5年)	
	明治時代	慶応3年	1867	大政奉還		立田輪中と神明津輪中との間を流れていた間之川(あいのがわ)のしめ切り	
約150年前		明治2年	1869	明治維新			
		明治19年	1886				尾張一宮駅ができた
		明治22年	1889			木曾川大改修工事着手(デ・レーケ)	
		明治24年	1891		濃尾大地震		
		明治29年	1896	祖父江村が祖父江町になった			
		明治32年	1899				尾西鉄道が開通し 森上駅・六輪駅ができた。
		明治33年	1900			佐屋川がせき止められて、 水害が少なくなった	
		明治37年					国鉄稲沢駅ができた
		明治39年	1906	馬飼村が長岡村になった。 祖父江町ができた。(祖父江町、山崎村、橋内村、丸甲村、牧川村がいつしよになった)			
		明治44年	1911			三川分流通工事が一応完成(デ・レーケ)	

	大正時代	大正10年	1921				祖父江町役場ができた 乗合馬車が通るようになった
約100年前		大正13年	1924				上丸洲駅ができた 尾西電車が一宮から 国府宮駅まで開通
		大正15年	1926				
		昭和元年					
		昭和4年	1929			木曾川・給父渡船の転覆遭難 →十万休地蔵流し(地泉院)の始まり	乗合自動車(バス)が 通るようになった
		昭和16年	1941	太平洋戦争→1945年まで			
		昭和19年	1944		東南海地震		一本松に雷が落ちて枯れた
		昭和30年	1955				濃尾大橋完成
	昭和時代	昭和31年	1956	長岡村が祖父江町といっしょになった			
		昭和34年	1959		伊勢湾台風		
		昭和44年	1969				東海大橋が開通した
約50年前		昭和51年	1976				馬飼大橋2月26日に開通 八神渡し3月31日に廃止
		昭和64年	1989				
	平成時代	平成17年	2005	祖父江町が稲沢市といっしょになった			
		平成31年	2019				
	令和時代	令和元年					
		令和5年	2023				長岡保育園閉園

6. 結言

本研究では、小学校中学年対象の地域資料をデジタル学習材として開発し、知識構成型ジグソー法による授業指導案を作成した。地域資料の収集にあたり、身近な地域資料の入手が困難であることや子ども用の地域資料として貴重な社会科副読本が保管されていないことが地域資料の活用を妨げている要因であるとわかった。これらのことから、市区町村の教育委員会および学校現場、地域の公共図書館との連携が必要であると感じる。地域資料の書誌情報をまとめ、地域の公共図書館のホームページ等で公開することで誰もが気軽に利用することが可能となる。さらに地域住民が書き残した記録やオーラルヒストリーをデジタル資料として残していくことも地域の歴史や文化の継承に役立つものとなる。

子ども用の地域資料を作成するなかで、時間を要すると思われたことに既習漢字の確認がある。学年によって習った漢字が異なるため、文字情報に関しては、随時確認を行い、ふりがなを付与しなければならない。また、文字の大きさにも配慮が必要となる。さらに既習概念にも気を付けなければならない、前学年、前学期で学習したことを生かした授業展開が子どもたちにとって一貫性があり学ぶ意欲につながるものとなる。こうした配慮をしながら地域資料を作成することは教師にとっては、時間を要する作業でもあるが、地域の歴史的な資料は一度作成すれば、よほど大きな歴史的発見がない限り変更の必要はない。もしくは、変更が必要となった時点でそれまでの経緯を記録したものを更新することもまた、後世に役立つアーカイブ資料となる。そうしたことを考慮すると、地域学習を進める中で、新たな気づきや変更点があれば、記録を加えていくというアーカイブの視点を子どもたちにも持たせる必要があるのではないかと考える。今回の調査過程を通して資料に当たるなかで、年代が統一できない事象がいくつかあった。子どもたちが調べ学習をするうえでも同様のことが起こる可能性があるが、紙の資料だけでなく、地図や口伝等、その他様々なコンテンツを辿ることでその全貌が明らかとなる。そのことに気づき、学びの過程を通して課題を見極め、解決方法を探るといふ本来の探究型学習が実現するような学習材と学びの機会を提供する必要があると考える。

7. 参考文献

- 1) 文部科学省. 教育基本法. 第一章「教育の目的及び理念」.
https://www.mext.go.jp/b_menu/kihon/about/mext_00003.html, (参照 2023. 5. 21).
- 2) 文部科学省. 学校教育法第 2 章第 21 条（義務教育の目標）第 3 項.
https://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/html/others/detail/1317990.htm, (参照 2023. 5. 21)
- 3) 文部科学省. 小学校学習指導要領(平成 29 年告示)解説社会編.
https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/__icsFiles/fieldfile/2019/03/18/1387017_003.pdf, (参照 2023. 5. 21).
- 4) 内閣府. 地方分権改革推進法（平成 18 年 12 月 15 日公布）.
<https://www.cao.go.jp/bunken-suishin/archive/category01/archive-h.html>,
(2023. 5. 21)
- 5) 愛知県. 愛知県の市町村合併. (2019 年 5 月 10 日).
<https://www.pref.aichi.jp/soshiki/shichoson/0000005246shichoson-gappei.html>,
(参照 2023. 5. 21)
- 6) 全国町村会. 平成の合併をめぐる実態と評価. 平成 20 年 10 月 8.
www.zck.or.jp/teigen/gappei-ma.pdf, (参照 2023. 5. 21)
- 7) 文部科学省. 文部科学省. 小中高等学校の統廃合の現状と課題.
https://www.soumu.go.jp/main_content/000638148.pdf, (参照 2023. 3. 28)
- 8) 大井将生, 渡邊英徳. ジャパンサーチを活用したハイブリッド型キュレーション授業: 遠隔教育の課題を解決するデジタルアーカイブの活用。デジタルアーカイブ学会誌 2020, Vol. 4, No. S1.
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jsda/4/s1/4_s69/_pdf/-char/ja
- 9) 文部科学省. 遠隔教育システム活用外部ブック. 第 2 章遠隔教育の実践例. P. 36,
https://www.mext.go.jp/content/20210601-mxt_jogai01-000010043_002.pdf
- 10) 愛知県総務部市町村課. 愛知県における平成の合併の効果と課題. 平成 23 年 3 月,
<https://www.pref.aichi.jp/uploaded/attachment/2125.pdf>, (参照 2023. 3. 28)
- 11) 井ノ尾功. 学び!と社会 〈Vol. 03〉. こんなときどうしよう? ①地域教材がみつからない!. 日本文教出版. 2012. 11. 30.
<https://www.nichibun-g.co.jp/data/web-magazine/manabito/shakai/shakai003/>,

(2023. 6. 2)

- 12) 青木純一, 堀内正志. 教員の多忙化をめぐる経緯と教員勤務実態調査に関する一考察—学校における効果的な多忙化対策の基本的論点を探る. 日本女子体育大学紀要 44 巻, 17-26, 2014 年 3 月.
- 13) 木曾三川流域大絵図. 高木家文書デジタルライブラリーE-4-(1)-6267.
https://libdb.nul.nagoya-u.ac.jp/infolib/meta_pub/G0000011Takagi_TECA-6267-000x, (参照 2023. 6. 3)
- 14) 稲沢市史. 稲沢市役所発行. 昭和 43 年 11 月 1 日発行.
- 15) KISSO Vol. 30. 国土交通省 中部地方整備局 木曾川下流河川事務所. ふるさとの街・探訪記【祖父江町】. <https://www.cbr.mlit.go.jp/kisokaryu/KISSO/index.html>.
- 16) 祖父江町教育委員会. わたしたちのまちそぶえ. 平成 8 年 4 月 1 日.
- 17) 稲沢市ホームページ. 稲沢の昔ばなし.
www.city.inazawa.aichi.jp/miryoku/story/index.html
- 18) 歴史と文化のまち稲沢市 文化財探訪 III 「郷土の歴史・文化・伝統の学習」祖父江地区案内資料編 増補再訂. 稲沢市郷土歴史文化研究会・稲沢市ふるさとガイドの会. 稲沢市教育委員委員会. 平成 21 年 4 月.
- 19) 祖父江町史. 祖父江町史編さん委員会. 祖父江町史編さん研究会. 昭和 54 年.
- 20) 今昔マップ on the web. <https://ktgis.net/kjmapw/>. (参照 2023. 6. 3)
- 21) 伊藤裕康. 社会科副読本に関わる実践及び研究の歴史から見た社会科地域学習の現状と課題, 香川大学教育実践総合研究, 17, 1-13, 2008-09-01.
- 22) 田村真広. 社会科副読本に見る教育的機能とその有効活用に向けての課題—農業単元に焦点を当てて—, 釧路論集 28, 49-61, 1996.
- 23) 伊藤裕康. 市町村合併時代の小学校社会科地域学習と副読本, 地理学報告, 102, 1-15, 2006-06-01.
- 25) 正木久仁. 平成の市町村合併から「身近な地域」を想う, 大阪教育大学地理学会報. 第 49 号, p. 6, 2005.
- 26) 池俊介. 市町村合併に伴う社会科副読本の課題, 早稲田大学大学院教育学研究科紀要. 18 巻, 1-14, 2008-03-03.
- 27) 稲沢市教育委員会. わたしたちのまちいなざわ 3 年生. 平成元年 4 月.
- 28) 稲沢市教育委員会. わたしたちのくらし稲沢 4 年生. 平成元年 4 月.

- 29) 稲沢市教育委員会. わたしたちのいなざわ 3・4 年生. 平成 18 年 4 月.
- 30) 北俊夫, 小原友行ほか 99 名. 新しい社会 4. 東京書籍株式会社. 令和 4 年 2 月 10 日.
- 31) 祖父江町教育委員会. わたしたちの町そぶえ. 昭和 55 年 4 月.
- 32) 稲沢市教育委員会. わたしたちのいなざわ 3・4 年生. 平成 23 年 4 月.
- 33) 稲沢市教育委員会. わたしたちのいなざわ 3・4 年生. 平成 27 年 4 月.
- 34) 稲沢市教育委員会. わたしたちのいなざわ 3・4 年生. 令和 2 年 4 月.
- 35) 相澤亮太郎. 郷土学習と防災教育 : 木曽三川流域の社会科副読本に着目して, 甲南女子大学研究紀要. 人間科学編, volume (48), 13-20, 2011.
- 36) 稲沢市. 第 3 次稲沢市環境基本計画 第 2 章環境の現状と課題(6) 自然環境 河川・水辺
www.city.inazawa.aichi.jp/_res/projects/default_project/_page_/001/004/019/2.pdf
- 36) 教育出版. 「小学校社会科教授資料 第 3 学年・第 4 学年用 地域副読本作成の手引き」平成 31 年 4 月. 日本文教出版株式会社. 「小学校社会科 3・4 年生用 副読本作成の手引〔新訂版〕」. 平成 30 年 10 月 1 日. 東京書籍株式会社「小学校社会/第 3 学年・第 4 学年用 副読本作成の手引き. 2023 年 1 月.
- 37) 岡崎均. 小学校社会科教科書のデジタル化に関する研究 -愛媛県南予地方の水産業教材の事例開発を手がかりに-. 社会科教育学研究. 第 30 号, 2018, 77-86.
- 38) 正司顯好, 浅井拓久也. 児童文化財における紙芝居と絵本の違いについて. 小池学園研究紀要. 第 16, 175-190, 2018-03-26.
- 39) 岐阜女子大学デジタルアーカイブ研究所.
<https://digitalarchiveproject.jp/database/> 【研究】地域課題探求型学習における地域資料の/, (参照 2023. 7. 30).
- 40) 地泉院ホームページ. <https://jisennin.ehoh.net/#>, (参照 2023. 7. 30).
- 41) 栗花光彌. 『尾張名所図会 後編二』の訳本『の一と尾張名所図会後編二』. ブックショップ「マイタウン」. 平成 12 年 2 月 1 日発行 (50 部).
- 42) 八開村通史. 八開村史編さん委員会. 2000. 3.
- ※佐屋川の締め切り年について, 八開村史 P258. には明治 32 年 (1899 年), 祖父江町史 P. 807 には明治 33 年 (1900 年) 11 月と記載されているが, (本稿 P14. P39.) では明治 33 年を採用。

謝辞

本研究を進めるにあたり、丁寧にご指導くださった岐阜女子大学の主査 久世均先生、副査 井上透先生、副査 谷里佐先生に心より感謝申し上げます。また、論文指導をしてくださった横山隆光先生、三宅茜巳先生、その他岐阜女子大学の諸先生方に感謝の意を表します。

資料収集の際には、資料提供および使用の快諾を快くお引き受けくださいました稲沢市立下津小学校の川口広樹先生、また、数々の資料を提供いただきました稲沢市立長岡小学校校長の小久保規与子先生および読み聞かせボランティア仲間の皆様、ならびに音声収録にご協力をいただきました地泉院ご住職の三上榮人様、橋本洋子様、あま市美和図書館副館長の吉田明子様、皆様のご協力と支えがあって、修士論文とすることができました。皆様方に深く感謝の意を表し、謝辞と致します。